

令和 6 年度

事業報告書

社会福祉法人 都島友の会

〒 534-0021 大阪市都島区都島本通 3-4-3

事業報告の内容を補足する重要事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

令和 6 年度事業報告書(目次)

I 令和 6 年度本部事業報告	1
II 事業の内訳	8
III 事業別報告	
1. 第一種社会福祉事業	
(1)老人福祉施設 《特別養護老人ホームひまわりの郷》	9
2. 第二種社会福祉事業	
(1)放課後児童健全育成事業《都島児童館》	11
(2)認定こども園・保育所	13
(3)児童厚生施設・子育て支援事業	23
(4)児童発達支援センター	26
《こども発達サポートステーションそれいゆ》	
(5)児童発達支援・放課後等デイサービス	29
(6)老人福祉施設 《友渕地域在宅ステーションひまわり》	30
(デイサービス・在宅介護支援サービス)	
(7)老人福祉施設 《特別養護老人ホームひまわりの郷》	32
(短期入所生活介護・社会貢献事業・訪問介護ひーぐるま)	
3. 公益事業	
(1)居宅介護支援事業	34
(2)比嘉正子地域貢献事業研修センター	35
(3)保育士等キャリアアップ研修事業	36
4. 収益事業	
(1)賃貸ビル(福祉ビル)	37
5. 研修報告	
人権研修、役員研修、外部研修、法人内研修、アウトリーチ型研修、 保育士等キャリアアップ研修	38

I 令和 6 年度本部事業報告

○適正な法人運営

定款及び諸規程を遵守し、理事会・評議員会のもと適正な業務執行に努めるとともに、安定的な財務基盤の確立、透明性の高い財務管理など本部業務を推進した。

法人の児童・高齢各施設は、保護者・利用者家族のご協力をいただきながら、安全安心の施設運営を行った。

○理事会

令和 6 年 5 月 31 日 6 月 6 日 8 月 5 日 9 月 30 日 11 月 14 日

令和 7 年 1 月 14 日 3 月 21 日

議案は別紙のとおり

○評議員会

令和 6 年 6 月 20 日 令和 7 年 3 月 31 日

議案内容は別紙のとおり

○役員選任

令和 6 年 6 月 20 日に開催された定時評議員会で、西平 哲監事の後任として、社会福祉法人たらちね事業会理事長の尾崎拓司氏が選任された。任期は、令和 6 年度会計に関する定時評議員会終結時まで。

○評議員選任・解任委員会

令和 6 年 8 月 5 日に開催された理事会で、尾崎拓司監事が、評議員選任・解任委員会委員に選任された。令和 6 年 8 月 9 日に任委員会が開催され、理事会から推薦のあった木幡利至朗氏を選任した。任期は、令和 6 年度会計に関する定時評議員会終結時まで。

○監 査

法人監事監査（西平監事・松野監事）

令和 6 年 6 月 3 日

幼保連携型認定こども園・保育園に係る指導監査

（こども青少年局）

令和 7 年 1 月 21 日～23 日

特別養護老人ホームひまわりの郷対する実地指導

（福祉局）

令和 7 年 3 月 4 日

○福祉サービス第三者評価の受審

都島乳児保育センター

令和 7 年 2 月 12 日・13 日

都島第二乳児保育センター

令和 7 年 2 月 19 日・20 日

○苦情解決第三者委員会

申立人から開催要請

大阪 令和 6 年 8 月 19 日

令和 5 年度下半期及び令和 6 年度上半期の苦情受付処理状況を報告

大阪 令和 6 年 11 月 1 日 沖縄 令和 6 年 12 月 4 日

○経営会議 施設長会

経営会議 案件に応じ随時開催

施設長会 高齢者施設会議 毎月定例開催

○園長会 副園長会 主任会

随時開催

○法人部会

法人内部会

採用検討委員会 看護師連絡会 リスクマネジメント委員会 他

法人外部会

私立保育園連盟の各部会 府社協保育部会

府知的障害児者施設連絡協議会

市老人福祉施設連盟 区社会福祉施設連絡会 他

○施設整備

幼保連携型認定こども園成育児童センター

譲渡手続きを進めていた隣接地(264.46 m²)の取得が、令和 6 年 5 月 24 日に完了した。環境向上及び定員増に伴う増築工事について、大阪市へ令和 7 年度の保育施設等設置事業者として申請したところ、審査の結果、令和 7 年 4 月 10 日付けで設置予定者として決定通知を受けた。

幼保連携型認定こども園友渕児童センター及び都島友渕乳児保育センター

保育内容の向上や安全確認に資するため、保育室内にネットワークカメラを設置した。

幼保連携型認定こども園都島児童センター

開設以来 11 年が経過し、全照明器具を LED に取替えた。

○高齢者事業の組織

高齢福祉 3 事業の連携強化のため、特別養護老人ホームひまわりの郷を核とした統括的組織を編成した。特に高齢化が進む友渕地域で、友渕地域在宅サービスステーションひまわりが、在宅介護の要として機能を最大限に発揮させるため、訪問介護ひーぐるま事業所をひまわり内に移転し、通所・訪問介護の連携協力体制を構築した。

○人材確保と処遇改善

採用検討委員会を中心に、保育士・介護士養成校への訪問、就職フェアへの参加、施設見学者への説明、SNS 等を利用した情報発信・継続的なアプローチ等リクルートに努めた。新たに、法人職員の紹介による採用を進めるため、職員紹介規程を制定した。

保育職員は 5 名、介護職員は 3 名（外国人）の採用となり、職員体制確保にあたり、各園とも一部、派遣職員を配置した。

人材確保と離職防止のため、初任給引上げと児童施設給与表を改正、令和 7 年度も前年度の人事院勧告を考慮し、初任給引上げと給与表改正を実施した。保育士宿舍借上げ事業は、令和 6 年度末で 15 名が利用。

○保育士等キャリアアップ研修

比嘉正子地域貢献事業研修センターで乳児教育・幼児教育など 7 分野 5 単元 35 講義の保育士等キャリアアップ研修を実施した。受講者は 230 名、修了者は 219 名。

○研 修

保育士等キャリアアップ研修（比嘉正子地域貢献事業研修センター）

各施設における研修

大阪府社会福祉協議会などが実施する外部研修へ参加

詳細は 38 ページ以降に掲載

○人 事

経験、適正に応じた法人内異動の実施

令和 7 年 4 月 1 日付辞令交付

昇格・異動 計 20 名（昇格 4 名 異動 16 名）

新規採用 計 8 名（保育教諭 3 名 保育士 2 名 介護職員 3 名）

経験、技能に応じ、副主任・リーダーの配置と処遇

○表 彰

大阪市社会福祉施設従事者 市長表彰 1 名 感謝状 11 名

大阪府社会福祉協議会 知事表彰 1 名 会長表彰 1 名

日本保育協会保育実践研究

優秀賞 幼保連携型認定こども園友渕児童センター 中村智子

看護師による「いのちのおはなし」～発達段階に合わせた命と心の教育

○福利厚生

ひまわり交流会

令和 6 年 6 月 27 日 7 月 26 日 10 月 25 日 研修センター

ひまわり親睦会

令和 6 年 11 月 9 日 ホテルニューオータニ大阪

各施設の厚生会活動に対し福利厚生費として補助

○財 務

新会計基準のもと、適正な財務管理に努めている

法人の財務状況について法人ホームページで公表

監事監査報告書 財務情報 事業報告書 現況報告書

○広報活動

・広報誌ゆんたく

令和 6 年 9 月発行 No39 4,000 部

令和 7 年 3 月発行 No40 4,000 部

保護者 利用者家族 地域 社会福祉関係他に配付

・各施設ホームページを随時更新

・幼保連携型認定こども園・保育園から毎月「園だより」をよいこネットで配信

・施設行事の地域への周知、参加呼びかけ

・各施設週報告(施設長から理事長 事務局長 全施設長)

・Web 小説 比嘉正子物語「蒼天に咲くひまわりの愛」をホームページで連載

令和 7 年 3 月 17 日公開 全 50 話 毎週月曜午前 11 時更新

・季刊紙「檸檬新報」への連載 高齢施設の紹介 3 回

令和6年度理事会開催状況

開催年月日	出席状況	議 案 内 容
6. 3. 21		①令和5年度補正予算(案)について
理事 7(欠1)		②令和6年度事業計画(案)について
監事 2		③令和6年度収支予算(案)について
		④定款変更について
		⑤給与規則の改正について
		⑥役員賠償責任保険契約の内容について
		⑦評議員会の招集について
		⑧施設長の選任について
		⑨苦情解決第三者委員の委嘱について
		業務執行報告
6. 5. 31		①あやなすの郷新築工事基本設計業務の委託について
理事 8		報告 三井ホーム株式会社との裁判経過
監事 1		報告 給食委託業者選定について
6. 6. 6		①令和5年度事業報告の承認について
理事 8		②令和5年度計算関係書類及び財産目録の承認について
監事 2		③施設長の選任について
		④役員(監事)候補者について
		⑤定款変更について
		⑥就業規則(高齢施設)の一部改正について
		⑦役員退職慰労金の支給について
		⑧定時評議員会の招集について
6. 8. 5		①評議員選任・解任委員会委員の選任について
理事 7(欠1)		②評議員選任候補者の推薦について
監事 2		報告 あやなすの郷新築工事基本設計業務委託契約の成果物について
		報告 給食委託業者選定結果について
6. 9. 30		①給与規則の一部改正について
理事 8		②公印管理規程の一部改正について
監事 1		③職員紹介規程の制定について
6. 11. 14		①三井ホーム株式会社との裁判経過(調停案提示)について
理事 8		②苦情解決第三者委員(沖縄)の委嘱について
監事 2		
7. 1. 14		①幼保連携型認定こども園成育児童センター増築に係る大阪市への応募申請について
理事 8		②延長保育時間の変更について
監事 2		

7. 3. 21	①令和6年度補正予算(案)について
理事 監事	②令和7年度事業計画(案)について
	③令和7年度収支予算(案)について
	④定款変更について
	⑤規則・規程の一部改正について
	⑥役員賠償責任保険契約の内容について
	⑦評議員会の招集について
	⑧施設長の選任について
	業務執行報告

※定数

理事 8

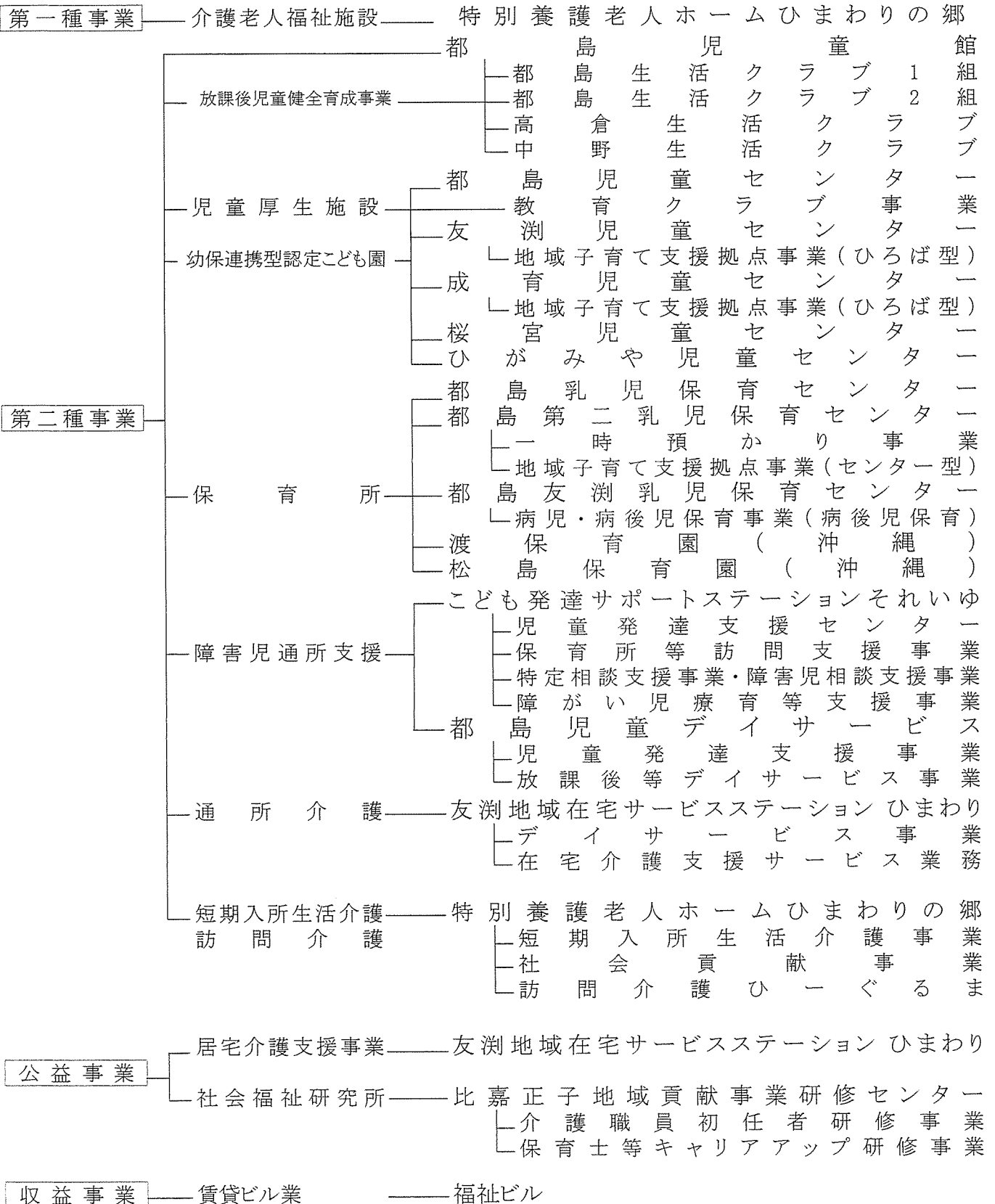
監事 2

令和6年度評議員会開催状況

開催年月日 出席状況	議 案 内 容
6. 3. 29	①令和5年度補正予算(案)について
評議員8	②令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
理事 3	③定款変更について
	業務執行報告
6. 6. 20	①令和5年度計算書類及び財産目録の承認について
評議員8	②令和5年度事業報告の報告について
理事 3	③定款変更について
	④役員(監事)の選任について
	報告 役員退職慰労金の支給について
7. 3. 31	①令和6年度補正予算(案)について
評議員	②令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
理事	③定款変更について
	業務執行報告

※定数
評議員 9

Ⅱ 事業の内訳

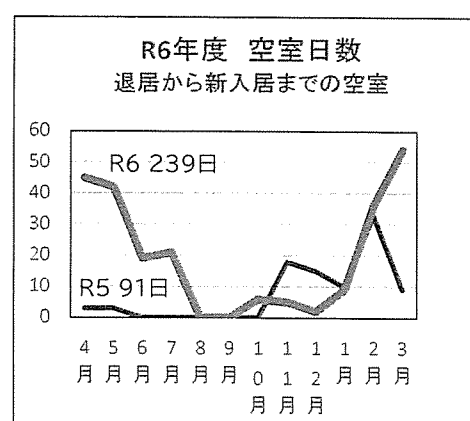
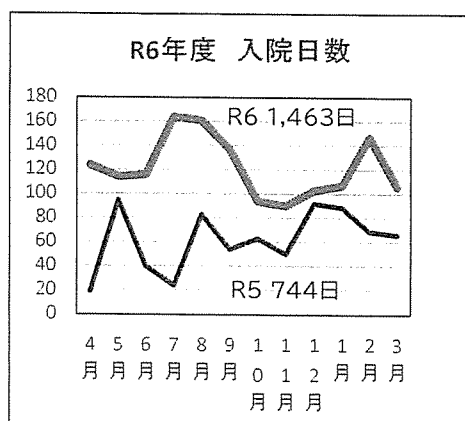
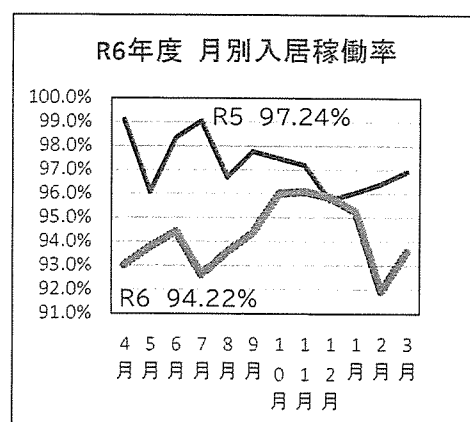
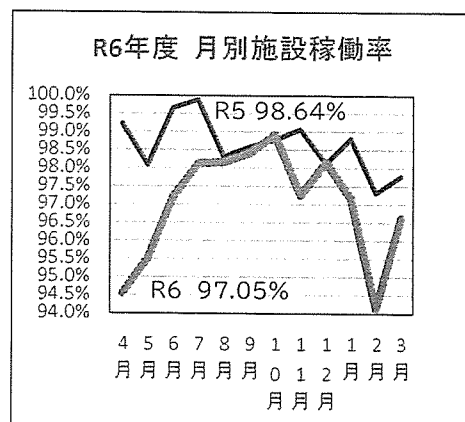


1. 第一種社会福祉事業

(1) 特別養護老人ホーム ひまわりの郷

特養定員数	81名
短期入所定員数	9名
利用延数※	31,881名
施設稼働率※	97.05%
男性介護度	4.09
女性介護度	4.15
平均介護度	4.14
男性平均年齢	84.8歳
女性平均年齢	88.6歳
平均年齢	88.1歳
最高年齢	106歳
最若年齢	54歳
看取り介護中	2名
胃瘻	3名

※延数及び稼働率には短期入所を含む



職員数

常勤職員									非常勤職員			合計
施設長	生活相談員	機能訓練指導員	介護支援専門員	管理栄養士	看護師	介護職員	事務職員	計	常勤並	短時間	計	
1	1	(1)	1	1	3	29	3	39	8	22	30	69

令和7年3月31日現在

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
特殊浴槽マイクロバブル	1,321,210
車いす用体重計	143,000
ガス回転釜	379,780
食器消毒保管庫	669,135
低床ベッド 10台	3,399,000
防犯カメラシステム一式	1,628,000
AED	374,000
厨房用給湯器	231,000
8 件	8,145,125

主たる修繕

ボイラー修繕
個浴浴槽修理
厨房自動水栓交換
厨房給湯系統漏水修繕工事
電気錠交換
厨房空調設備修繕
非常照明器具交換

コメント（特養）

(1) 取り組み

1. 令和6年度介護報酬改定への取組

① 地域包括ケアシステムの深化・推進

- ◇ 緊急時等の対応方法について、配置医師及び協力医療機関（医誠会国際病院）の協力を得て、必要に応じて緊急時等における対応方法の変更等を行った。
- ◇ 入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保して、協力医療機関名称に関しては、大阪市へ届出を提出した。
- ◇ 協力医療機関（医誠会国際病院）とは、新興感染症の発生時等における連携強化を図った。

② 自立支援・重度化防止に向けた対応

- ◇ 科学的介護情報システムLIFEへのデータ提供については、3か月に一度のペースで入居者のデータを提供した。厚労省からのフィードバックは不具合により、活用できなかった。
- ◇ 管理栄養士が、入所者の入院先の医療機関等に対して、栄養管理に関する情報を提供し、加算を算定した。

③ 良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり

- ◇ 介護職員等の確保に向けて、介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）を算定した。
- ◇ 介護現場の生産性向上に伴い、職場環境の改善を図り、厚労省に業務改善の取組による効果を示すデータの提供を行った。

④ その他の事項/各サービス共通事項の取組

- ◇ 運営基準省令上、重要事項説明書をホームページに掲載した。

2. 施設稼働率向上の取組

- ◇ 令和5年度と比較して、施設全体の稼働率が1.59%低下となった。理由としては、入院日数が令和5年度744日に対して、令和6年度は1463日であり、倍の入院日数であり、退去者数は24名で、空室が目立った。予算見込みの97%以上を推移させるために、入所検討委員会及び集計会議の充実を図った。

3. 施設内サービス向上及び地域開放の取組

- ◇ コロナウィルスが2類から5類への移行を受けて、中止にしていた各行事の再開を行った。
- ◇ 夏祭りについて、昨年に続き開催し、約1000名（推定）が来場した。
- ◇ カフェを通じ、お花あそびサロン、終活フェア、法人内保育園の保護者会を開催した。

(2) 課題

1. 介護現場の生産性向上

- ◇ 介護現場における生産性の向上を図るため、委員会の義務付けがある。高齢者施設全体で取組を行い、業務軽減につなげ、利用者の安全及び支援向上を図りたい。

2. 増収の取組

- ◇ 新入所者に関しては、入所検討委員会及び集計会議の強化を図り、スムーズな入所を行いたい。
- ◇ 相談Gの入居及び短期入所担当と介護Gの連携及び居宅介護支援事業所と病院の地域連携室との調整を図る。
- ◇ 介護福祉士の常勤換算率を上げるため、実務者研修取得/介護福祉士受験対策支援が求められている。
※介護福祉士常勤換算率 令和5年度(60%) 令和6年度(66%) 令和7年度見込み(69%)
※80%以上になると短期分のサービス提供体制強化加算(12単位⇒18単位/日)の最上位加算の算定が可能となる。

3. 令和6年度介護報酬改定

- ◇ 感染症対策向上に伴い、協力医療機関に訓練を依頼。
- ◇ 協力医療機関との連携強化が求められており、医療機関との会議及び緊急時の対応方法の見直し等を図る。
- ◇ 科学的介護情報システムLIFEへ情報提供後のフィードバック活用の強化。

4. 設備面

- ◇ 大阪府介護テクノロジー導入支援事業に申請を行い、Wi-Fi環境の構築及び見守りカメラを導入し、入所者の安全確保に努めたい。
- ◇ 社会情勢の変化が著しい現在の中で、物価高騰が予測されるため、経費削減対策を行う。
- ◇ 厨房機器に関して、経年劣化が激しいため、機器(厨房製氷機、ガステーブル、1槽シンク、テーブル型冷蔵庫)のリニューアルを行う。
- ◇ Windows10のサポートが終了するため、パソコンのリニューアルを行う。

5. 稼働率向上

- ◇ 入居施設の増加に伴い、入居希望者から選ばれる施設づくりが必要である。令和5年度以上に、相談・介護グループの連携強化を図り、ひまわりの郷の強みを精査し、地域に広報していきながら、稼働率向上に努めていきたい。

6. 人材確保

- ◇ 高齢者福祉の業界では、日本人の採用低下、外国人雇用増加、離職率の課題を抱えている。課題解決のため、開設以来、初めての人事担当主任及び外国人の職員を国際リーダーとして、課題を克服したい。また、人材の育成及びサービス向上に努めるため、介護主任を中心としたサービス展開を図りたい。
- ◇ 他産業の賃金値上げ及び人手不足の影響で、介護職希望者の減少が見込まれている。その中で、離職率の低下を防ぐことも人材確保であるため、人事コンサルティングを活用し、課題克服を図りたい。また、新たな人材確保については、SNSの時代でもあるため、媒体を活用し、幅広い人材を確保したい。地域に根付く施設として、都島区内にポスティングを行い、地域住民からの採用につなげたい。
- ◇ 大阪市老人福祉施設連盟主催の「介護の魅力伝え隊」の活動に参加し、各養成学校及びハローワークへ訪問し、介護の魅力を伝え、採用に繋げる。

2. 第二種社会福祉事業

(1) 都島児童館

学年・学校別人数(令和6年4月1日登録児童数) - 都島生活クラブ1・2組

学年 学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
都島小学校	0	0	5	5	5	0	15
東都島小学校	9	12	10	8	4	1	44
合計	9	12	15	13	9	1	59

学年・学校別人数(令和6年4月1日登録児童数) - 高倉生活クラブ

学年 学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
友渕小学校	11	3	1	5	2	1	23
高倉小学校	2	2	5	6	4	1	20
合計	13	5	6	11	6	2	43

学年・学校別人数(令和6年4月1日登録児童数) - 中野生活クラブ

学年 学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
中野小学校	2	4	6	2	0	0	14
都島小学校	8	7	0	0	0	0	15
合計	10	11	6	2	0	0	29

職員数

職員数		都島1・2	高倉	中野	計
常勤	館長	1			1
	支援員	2	2	1	5
	補助員				0
非常勤	支援員	3	1	2	6
	補助員	1	2	1	4
	その他				0
計		7	5	4	16

固定取得価格一覧

摘要	金額
パソコン(中野生活クラブ)	115,800
件	115,800

主たる修繕

各所修繕

コメント(都島児童館)

今年度は、職員構成としてリーダー・副リーダーの位置づけを充実しミーティングもリーダー会議と全体会議に分けて職員の役割を明確になるように努めた。しかしリーダーが充実した分、他の職員の役割が薄く感じた。来年度はリーダーを中心としながら、一人一人の意識をしっかりと持つようにしていきたい。昨年度に引き続き、各施設のカラーを出すよう活動をしていく。子どもたちにも「自由の中にもルールがある」ことを伝えながら子どもたちで考えた行事を盛り上げていけるよう職員は寄り添う。また各施設非常勤職員も放課後支援員の資格を持っている方が多いので子どもの支援と職員と役割分担を一緒に考えていけるようにしていく。

	事業計画に基づく取組み・成果	課題・改善点
都島 1	昨年度までは特定の活動に対しての支援・見守りを職員を固定する形式で行っていたが、今年度は正規職員・補助員共に臨機応変に対応する関りに変えたことで、より子どもたちの幅広いニーズに応えることが可能となった。 第2乳児センターでの乳児との関りや中野生活クラブとの合同遠足、園庭での活動など、これまでになかった活動も増えたことで、保護者の方からも児童館の活動の充実に対し理解を得ることが出来たと感じる。	口頭での児童の様子の共有は積極的に図ってきたが、SNSを使用した写真の掲載、児童の作品物の掲示など、保護者がより子どもの成長の様子を感じられるような「見える化」の実現に向け模索していきたい。 都島生活クラブに通う児童への育成支援はもちろんだが、中野・高倉の両生活クラブにも積極的に目を向け、都島児童館に通う子どもたち全員が、充実した生活が送れるように職員同士の相互協力を強める。 プレイルームを使用しての活動が充実した点はよかったが、結果的にその他の活動(公園、外遊び)への希望が少なくなり、活動の選択の際に少数意見が通りにくくなる事案も発生した。
都島 2	各学年に適した環境設定を行い、設定を繰り返すことで、子ども同士や異学年の交流、または仲の良い者同士など環境を通して人間関係が図られた印象がある。2年間都島2組を担当して、環境から見えてくる、子どもそれぞれの性格や特徴を職員間同士で前年度以上共有できたように思う。それに伴い環境設定や職員の質も更に向上して、子どもと利用者には安心して利用してもらえる手ごたえを感じるようになった。各職員の質の向上も伺えるが、それ以上に二年を通じて、子どもの大きな成長を感じることが大きく、新しく入って来る次の子どもに、ここで成長した子どもが、関りを含めここ都島の生活をどういった形でリードしていくのかという姿にも期待したい。	2人担任という部分で、職員同士の任せ合いや、主導する場面が極端であったりと、もっと自分が前に出ることで、子どもや保護者にも安心が得られたのではないかなと思う。今後その辺りも更に意識して取り組んで行く。また、一人ひとりの声を聞くことが難しい環境でもあるが、その都度、環境を変えたり職員の配置等に気をつけることで、解決・回避できた場面も少なくなかった。現状活動の安定感はあると思うが、一気に1年生の人数も増えるので、これまでの事例を参考にして、環境設定の予測と、子どもと利用者、職員間でより連携を深め、一層質の高い新年度にしたい。
高倉	今年度もオープンなレイアウトを継続。施設内での活動を常に把握し、子どもが生活している時に起きるであろう事象にすぐに対処できるよう心がける。活動中のトラブルなど、大人(職員)にすぐに頼るのではなく、子どもたち同士で解決できる事は話し合うよう見守る時間を長くすると同時に、子どもたち同士でも注意し合えるような声掛けをする。今年度も言葉遣いが多少きつい子はいたが、大人が注意する前に子ども同士で注意したり、低学年同士のトラブルに介入し、解決方法を一緒に考えてくれる上級生の姿があった。その結果か、去年より更に異年齢の関係性が深くなり、外遊びなども異年齢で遊ぶことが多くなって団結力が上がったと感じる。	雨天時など外遊びに行けない日の室内での活動をもう少し充実できたと感じる。下半期は一通り室内で活動を終えた子が次にすることを決めあぐねている子どもがいたので、常に何か活動できるよう環境整備をしていきたい。
中野	前年度は手探りでの「土台作り」の1年であったが、今年度は子どもたちの中で出来上がった生活や活動の土台をもとに「活動の幅を広げる」1年間にすることができた。新しい1年生も入ってきたが、すでにある中野生活クラブの子どもたち主体の生活や活動(土台)を見て学び、子どもたち全体の関係性も良好で、前年度以上に様々な活動に広がりを見せることができた。普段の遊びもバリエーションが増え、子どもたちだけで話し合いながら活動を作り上げていく姿もある。イベント事では職員だけでなく子どもたちも積極的に参加してくれていたため、イベントの回数も増え、かつ毎度中野生活クラブのカラーを出したイベントを行うことができていた。	①現在は子どもの人数は少なく、かつ1～2年生が中心のクラスであるが、令和7年度からは人数も30名を超え3年生以上の中学年の子どもたちも増えてくる。より1、2階を上手に活用する必要があるため大きな環境整備が必要になると思われる。 ②活動人数の増加から活動範囲も広がるので、より安全に過ごすための職員の連携(活動の見守りなど)は密なものとしていきたい。また、子どもたちの中の安全意識についても引き続き職員から声掛けをすることで、子ども自身や子ども同士での安全な活動に向けた意識付けも大切にしていきたい。

(2) 幼保連携型認定こども園・保育所

委託児童数（年間延べ人数）

※下段()は障害児数再掲

園名	年	利用定員	4月初日 在園児数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
認定こども園 都島児童センター	1号	15	16			28	24	56	60	168
	2.3号	316	237	101	264	327	627	644	720	2,683
		331	253	101	264	355	651	700	780	2,851
認定こども園 友渕児童センター	1号	25	19				(12)	(12)		(24)
	2.3号	228	194	71	168	384	582	516	663	2,384
		253	213	71	168	384	659	595	735	2,612
認定こども園 成育児童センター	1号	6	3				1	12	15	28
	2.3号	90	81	92	204	204	192	192	180	1,064
		96	84	92	204	204	193	204	195	1,092
認定こども園 桜宮児童センター	1号	6	6				(8)	(12)		(20)
	2.3号	223	151	85	252	332	411	325	444	1,849
		229	157	85	252	332	435	349	468	1,921
認定こども園 ひがみや児童センター	1号	15	11				24	24	24	72
	2.3号	225	195	82	228	300	619	639	672	2,540
		240	206	82	228	300	661	685	721	2,677
都島乳児保育センター	3号	70	52	144	267	279				690
都島第二乳児保育センター	3号	60	56	88	308	330				726
都島友渕乳児保育センター	3号	40	31	74	180	178				432
渡 保 育 園	2.3号	80	71	30	132	177	192	192	120	843
松 島 保 育 園	2.3号	100	77	44	188	216	219	180	108	955
計		1,499	1,200	811	2,191	2,755	3,010	2,905	3,127	14,799
				(12)	(12)	(0)	(44)	(24)	(48)	(140)

年度途中入所受け入れ状況

園名	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
都 島 児 童 セ ン タ ー			1		3	2	1		3	2	1	2		15
友 渕 児 童 セ ン タ ー			1		1			1						3
成 育 児 童 セ ン タ ー				1	1						2			4
桜 宮 児 童 セ ン タ ー		1	1		3		2	1		1				9
ひ が み や 児 童 セ ン タ ー				1			1		2		2	1		7
都 島 乳 児 保 育 セ ン タ ー			1	1	2			2	3	1				10
都 島 第 二 乳 児 保 育 セ ン タ ー			1		2		1	2	1	1		2		10
都 島 友 渕 乳 児 保 育 セ ン タ ー				1	1	4			2					8
渡 保 育 園					1			1						2
松 島 保 育 園			1			1		2						4
計		1	6	4	14	7	5	9	11	5	5	5	0	72

延長保育利用延べ人数

園名	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
都 島 児 童 セ ン タ ー		226	319	337	295	235	314	312	321	282	307	263	300	3,511
友 渕 児 童 セ ン タ ー		116	123	116	176	144	157	216	217	170	177	157	188	1,957
成 育 児 童 セ ン タ ー		102	103	117	154	116	125	139	165	148	143	160	161	1,633
桜 宮 児 童 セ ン タ ー		131	97	101	103	94	112	117	129	127	142	111	114	1,378
ひ が み や 児 童 セ ン タ ー		313	321	308	315	244	320	352	333	245	290	274	276	3,591
都 島 乳 児 保 育 セ ン タ ー		26	35	58	73	40	54	54	64	70	53	72	80	679
都 島 第 二 乳 児 保 育 セ ン タ ー		35	28	17	32	35	61	71	77	58	55	66	59	594
都 島 友 渕 乳 児 保 育 セ ン タ ー		15	26	28	34	30	28	34	33	27	29	31	35	350
渡 保 育 園		89	90	87	110	84	68	77	65	91	88	89	89	1,027
松 島 保 育 園		92	111	100	123	104	105	131	92	134	97	110	98	1,297
計		1,145	1,253	1,269	1,415	1,126	1,344	1,503	1,496	1,352	1,381	1,333	1,400	16,017

職員数(子育て支援事業含む)

(下段は無資格)

	常勤職員								非常勤職員			派遣職員			合計
	施設 園長	主任 副園長 保育士	主幹 保育教諭	保育 教諭	看護 師	栄養 調理 士	その他	計	常勤 並	短時 間	計	常勤 並	短時 間	計	
認定こども園 都島児童センター	1	1	2	15			1	20	8	8	16	1		1	50
									1	8	9	3	1	4	
認定こども園 友渕児童センター	1	1	2	11	1		1	17	11	2	13	2	2	4	41
									1	6	7			0	
認定こども園 成育児童センター	1		2	8		1		12	4	10	14	1		1	31
										4	4			0	
認定こども園 桜宮児童センター	1	1	1	9				12	6	10	16	2	2	4	36
										3	3	1		1	
認定こども園 ひがみや 児童センター	1		1	14			1	17	5	7	12	3	2	5	39
										5	5			0	
都島乳児 保育センター	1	1		5				7	7	5	12		1	1	25
									1	4	5			0	
都島第二乳児 保育センター	1	1		8		1		11	6	10	16			0	33
										5	5		1	1	
都島友渕乳児 保育センター	1	1		6				8	7	4	11			0	20
										1	1			0	
渡 保 育 園	1	1		10		1	1 (事務統括)	14	2	3	5			0	19
											0			0	
松 島 保 育 園	1	1		6		1		9	5	4	9			0	18
											0			0	
合 計	10	8	8	92	1	4	4	127	61	63	124	9	7	16	312
									3	36	39	4	2	6	

令和7年3月31日現在

固定資産取得価格一覧

都島児童センター	
LED照明取替工事	5,124,900
ITV設置	990,000
空気清浄機 2台	242,000
巧技台	180,000
パソコン 15台	2,392,720
AED	374,000
6 件	9,303,620

友渚児童センター	
パソコン 8台	1,369,500
ダストボックス	115,500
プロジェクター新設工事	2,700,000
クッションマット	110,000
無線LAN設備工事	510,400
ネットワークカメラ一式	2,619,166
6 件	7,424,566

成育児童センター	
フェンス工事一式	830,000
パソコン 5台	874,500
厨房冷蔵冷凍庫 2台	594,000
空間除菌脱臭機 3台	719,400
隣地購入他	110,462,485
5 件	113,480,385

桜宮児童センター	
パソコン 5台	1,409,100
AED	374,000
2 件	1,783,100

ひがみや児童センター	
折り畳みリヤカー	121,000
冷暖スポットエアコン	209,880
手・きれいき	110,000
パソコン 10台	1,747,900
4 件	2,188,780

都島乳児保育センター	
お散歩カー	140,000
パソコン 6台	1,059,300
2 件	1,199,300

都島第二乳児保育センター	
パソコン 6台	1,068,100
エアコン取付 2台	861,300
メッシュ三方幕	100,600
多目的ひな壇	242,000
4 件	2,272,000

都島友渚乳児保育センター	
ひなん車	105,600
パソコン 5台	884,400
給電ハブ 2, 3階	274,556
哺乳瓶殺菌保管庫	142,560
5 件	3,064,002

渡保育園	
園庭遊具	2,774,500
食器洗浄機	906,500
冷凍冷蔵庫	551,900
テーブル型冷凍庫	334,600
オルガン	184,000
5 件	4,751,500

松島保育園	
みわらびホールエアコン	990,000
みわらびホールミキサー・アンプ	341,000
エアコン	151,800
避難車	291,000
園庭遊具	1,349,500
5 件	3,123,300

主たる修繕

都島児童センター
排水管洗浄 玄関・ピロティドア修繕 エレベーター枠張替え他 トイレ腰壁振り止め設置工事 空調室内機洗浄

友渕児童センター
鍵取り替え他工事 排水管洗浄 保育室引戸修繕

成育児童センター
地下雑排水槽清掃 厨房床改修工事 空調室内機洗浄

桜宮児童センター
門扉ゲート交換工事 消毒保管庫修理他 排水管洗浄

ひがみや児童センター
ガス回転釜修理 緞帳修繕工事

都島乳児保育センター
エレベーター修繕

都島第二乳児保育センター
スチームコンベクション修理 排水管・高架水槽清掃 エレベーター修繕

都島友渕乳児保育センター
こどもトイレ修繕他 空調室内機洗浄

渡保育園
消防設備修繕

松島保育園
屋上フェンス工事 消防設備修繕

コメント(幼保連携型認定こども園1)

都島児童センター	○取組・成果について ・朝夕の送迎時、保護者証の着用をお願いしているため、保護者の出入りの把握がしやすくなり、防犯対策にも効果が見られている。 ・インフルエンザの全国的な流行や近隣小学校での感染拡大に伴い、年中児の感染が多数見られたが、早めの受診や消毒等、感染対策に取り組んだため、他学年への感染を最小限に抑えることが出来た。 ・参観だけでなく、保護者の要望が高かった保育参加も再開し、子どもたちの園での様子を保護者にみていただく機会が増加した。子どもたちの成長を感じてもらえたり、職員の子どもたちへの関わり等、園の取組を理解してもらえる場となった。参観・保育参加は平日の午前中に設定しているが、多くの保護者が参加している状況である。 ・HP(動画を含む)の更新(71回)を頻繁に行い、園内の様子を保護者や地域の方々にも周知することが出来た。 ・園舎内の電気をLEDに交換し、電気料金の節電にもつながった。 ・4月スタート時点で2名の育休職員がいた。また、年度途中で2名(1月・2月)が産休に入ったが、派遣職員を確保することで落ち着いてクラスを運営することが出来た。 ・途中入園児を15名受入れたが、職員の配置状況やクラス担任と連携をとりながら落ち着いた環境の中で受け入れることが出来た。産育休中の職員が多数いたが、派遣職員を確保することで前年度より途中入園児の受け入れが増加した。 ・職員用のパソコンを買い替え業務の効率も上がった。 ・労働時間内の終業を目指し、職員間の連携を図るとともに職員の意識も少しずつ変わってきているものの、まだまだ目標には至っていない。子育て中の職員が多いので、働きやすい職場作りを目指し体制を整えていきたい。 ・職員の年間休日が増え、リフレッシュ出来る時間が確保できるようになってきている。 ・各学年に配慮を必要とする園児や気になる園児がおり、園児や保護者への対応に苦慮していたが、引き続き専門の講師を依頼し職員研修を定期的に行うことで個々への支援方法や保護者への対応等、更に理解を深め実践することができた。 - また、保護者に寄り添いながら丁寧に話をすることで専門機関へ繋げることが出来た園児が多数いた。 ・キャリアアップ研修やアウトリーチ研修に職員が参加するだけでなく、職員自身が講師となり他の職員に向けて楽器指導の研修を行う等、スキルアップに取り組んできた。 ・中野生活クラブの小学生との関わりも増え、卒園児の成長も感じると共に園児との異年齢交流も自然に行うことが出来るようになってきている。 ・令和7年度4月から閉所時間の変更に伴い、様々な場面で保護者や見学者に説明し理解していただいた。 ○課題 ・職員の勤務体制や職務内容・職務分担を見直し、職員からの提案を聞きながら業務改善を図ると共に労働時間内の終業を目指す。 ・正規職員の人数減少、非正規・派遣職員の人数増加に伴い、職務内容・職務分担・シフトの増加等が正規職員への負担が大きくなってきているため、今後様々の課題を検討していくことが急務である。 ・新人職員確保に向け職員にも周知し、実習生や見学者だけでなく学生アルバイトを積極的に受け入れ、新規採用に繋げていくようにする。
友淵児童センター	理念、方針、目標、発達過程などを踏まえ職員の共通理解の基、教育・保育課程を再考し、年齢に応じた発達記録シートの見直し、教育保育内容の充実、また、すべての職員が職責に応じた必要な資質向上の為の研修を受講し、質の向上を図る。 ○取組成果について ・分園廃止にともない、令和6年度より本園にて0歳児から5歳児までの教育保育の提供を行った。園児たちは特に混乱なく過ごすことができた。また、幼児クラスの園児たちは0歳児クラスがあることで積極的な異年齢交流ができた。 ・年長児は看護師による『命のはなし』の講話を今年度も2期にわたって受ける。また、「プライベートゾーンとは一体何か？」自分自身で守るもの、他者に触れられたくない身体のことなど、年齢に応じたイラストを用いて教育時間を設けた。通年通しては「人との関り、痛み、寄り添う心の大切さ」を伝える。「チックチック言葉」と「フワフワ言葉」のわかりやすい表現で、言った言葉が相手にどう伝わるかを一緒に考えていった。 ・友淵中学校生徒による家庭科学習の受け入れや、演劇部の発表など地域交流も継続して行った。 ・年長児が友淵小学校1年生の学習見学に行く。小学校へ進学するという気持ちを高めることができた。 ○反省改善 《職員の協力体制・資質向上》 ・大きな事故、骨折や救急搬送を必要とする唇裂傷が続いた。その時、その時の再発防止・考察で見えてくるものは、毎回「見守りが不十分」。これは職員間の連携が適切ではない、今どう動くことがよいのか、その共通認識が不十分、という危機管理のずれが見えた。職責に関係なく、「パートだから」「担任ではないから」と責任転嫁をすることなく皆で「子どもたちの最善の利益とは」を今一度考えていきたい。 ・園全体で働き方改革、業務改善を行い離職防止になるよう常に検討していたが、まだ業務の優先順位が不十分で、若手職員を主に業務を積み上げてしまう傾向がみられた。環境づくり、コミュニケーションの構築等、園全体が盛り上がるよう気を配っていきたい。 ・各リーダーの立場、新人育成とは、後輩指導の在り方等、さらなる資質向上を図る。 ・看護師を仲立ちとし、日々の保健衛生や職員のメンタルケアにも留意していく。 ・職員の勤務体系も多様になりクラス数も10クラスになるため、伝達漏れがないよう共通認識ができる体制を再確認する。 ・令和6年度4月から保育提供時間を7:00～18:30としたが戸惑うこともなくスムーズに進められた。

コメント(幼保連携型認定こども園2)

成 育 児 童 セ ン タ ー	R6年度の事業計画として、質の高い教育・保育の提供、地域子育て支援の充実、職員間の連携やキャリアアップなどを掲げると共に、広報活動を活発に行い園内外に園のPRに努めた。職員の働き方改革、休憩時間の有意義な過ごし方、職員同士の連携に焦点を充て、働きやすく働きたい職場作りに努めた。 ○取組、成果について ・リーダー職員をフリーとして置くことで、どのクラスに入っても責任をもって対応してもらったことで、正規職員が安心して休暇を取っていた。また、教育・保育については、初めての活動などは若い職員の手本としてクラスに入ったり、アドバイスを求め職員が相談をするなど職員間の連携が取れていた。 ・園行事は、以前通りにしたものとコロナで変更になったものをそのまま継続するものと2つに分けた。以前同様にしたのは運動会と保育参加である。運動会は0～5歳児の全園児が参加する形とし、0、1歳児はプログラムの序盤で終了し、その後の見学は自由としたことで負担なく参加することができたとの声が多く、0～5歳児の成長の様子が見れたことも保護者は喜んでいて。保育参加について3～5歳児は給食を園児と食べることを復活した。10月に給食委託業者が変更となったこともあり、実際に給食を食べてもらえたことは非常に良かった点で、保護者からも「美味しい」の感想が多く寄せられた。ただ、変更した後の子ども達の食べ具合などを知らせていなかったため2月に行った年長児のクラス懇談会で質問を受けたので、きちんと手紙等で知らせるべきだった。また、餅つきについては園児に給食として餅は提供しないとなっているため、お迎えの時間に「けんちん汁」の中に餅を入れ、保護者の見守りのもと、食べられるお子さんのみ提供した。伝統的な行事をなくすのではなく形を変えて行うことで親子ともに楽しい時間となったのではないかなと思う。 ・養成校の学生が園に興味を持ってもらえるようなホームページの内容にしたことで、ホームページを見たという問い合わせが何件かあったので、今後もホームページを充実させ保護者限定に偏らないようにした。また、実習に入った学生には積極的に話しかけ、園に興味を持ってもらえるように働きかけ、全職員が同じ思いで実習の受け入れをするよう取り組んだ。 ・介護ポイント事業ボランティアの方の問い合わせが今年度初めてあり、花の手入れをしてもらい、常に園庭の花が美しい状態になった。 ・中学生の職場体験(中学2年生)だけでなく、家庭科の授業で乳幼児保育という課程(中学3年生)があり、11月中の7日間、1日36名の受け入れを行った。園の様子や園児の様子を知ってもらい、将来の仕事の1つとして考える機会となれば良いと考えている。また、高校生の夢体験としてのボランティアも20名の問い合わせと参加があった。 ・外部講師による特別活動(体育(全園児)、英語(4～5歳児)、プログラミング(5歳児)、音楽(3～5歳児))は、子どもたちが楽しみながら取り組み、できることが増える一方で、協調性、共感や思いやる心、コミュニケーション力、意欲や粘り強さ、頑張る力など非認知能力も育った。今年度より年長児のプログラミングはタブレットを使用した内容を6回行い子どもたちの興味関心が高く、話を聞いてから取り組む等楽しみながら集中して取り組む様子が見られた。また、子どもたちの意欲や能力を引き出す講師の関わり方からは職員も多くの技術を学んだ。私立保育園連盟の調査研究で音楽についての指導方法を研究することとし、外部の研修への参加ができた。 ・看護師がアレルギー、怪我の対処、AED等の研修を各2回行ったことで全職員が受けることができた。また、5歳児に向けての『命の話』の講話を行い、園児が心について考える時間が持てた。看護師はフレンドリーで、月1回身体測定に出向き、利用者育児での質問や身体的な質問に答えたり、年2回は利用者に向けての講座を行い、地域の子育て家庭に貢献した。 ・令和5年1月に採用した非常勤職員は午後4時半～6時半の2時間で園児トイレ、廊下、階段、保育室の最終の床拭きをしていただき日中勤務する職員の業務改善となり、書類の作成、制作の準備等に充てることができた。また、昼寝中の0、1歳児の見守りとして非常勤職員を充て、業務改善を行った。 ○今後の課題 ・リーダー職員だけでなく、全職員が自発的に園全体のことを考えながら日々の教育・保育に取り組めることができるよう今後も職員間の連携を密にしていきたい。 ・正規職員だけが会議に参加するのではなく、教育保育内容については非常勤職員とも会議等を行い、より良い教育保育ができるように努めていく。 ・園舎増築の際の安全対策を管理職だけで考えるのではなく、職員とともに考え共通理解のもと教育保育を行い、事故のないようにする。 ・増築の行程は全職員に周知し、見通しを持って業務が遂行できるようにしていく。 ・行事については土曜日から平日に移行できるものがあれば検討し、週休2日の実現に向け検討をしていく。 ・ホームページは、今年度、保護者用としてパスワードを付けた動画や写真をアップするようにしたが、保護者用と広報用の違いを決定せずにスタートしたため、曖昧になっている。個人情報の観点からどこまでを広報用としてアップするかを検討し、マニュアル化をする。 ・外部講師の講師からの学びと、園としての思いや意見を交換しながらすすめていけるよう担任間、職員間で特別活動に対しての共通理解をする。 ・キャリアアップ研修で身につけたスキルが、園全体のレベルアップにつながるような取り組みを進めていく。 ・養成校の学生にとどまらず、中高生が将来の職業の1つとして保育教諭が視野に入るような働きかけや受け入れ態勢を整え、職員に・園児の定員設定上、3歳児での1号認定園児の受け入れが難しく、保護者の離職によるところとなってしまう。今後は、利用定員に沿って、2歳児での退園があった場合は急いで新入園児を迎えるのではなく、1号認定での入園を希望する園児の枠として残し、3歳児での受け入れができるようにする。 ・職員の休憩時間の確保と、それにかかる人員の確保を行い、休憩がスムーズに行えるように、繁忙期でも休憩が取れる仕組みを構築する。また、休憩ができる環境を作る。
--	---

コメント(幼保連携型認定こども園3)

桜宮児童センター	令和6年度の事業目標として、前年度に引き続き、法人の理念・方針のもと、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき0歳から小学校就学前までの一貫したより質の高い教育保育を提供することを掲げた。 ○取組・成果について ・全職員それぞれ密に連携をとりながら保護者からの理解を得て0～5歳児まで落ち着いた環境で過ごすことができた。 ・日頃の取組が猛暑の時期と重なり9月に開催していた運動会を6月開催に変更し、子どもたちの取組が無理なく行えるようし保護者からも好評であった。 ・日々子どもたちが生活する環境を安全に過ごせるよう、危険箇所のチェック等職員で確認し、情報を共有して子ども達が安心安全に過ごせる環境づくりに努めた。また、ヒヤリハットの記入、集計、振り返りを行うことで事故を未然に防ぐことができるよう職員の意識に繋げるよう取り組んだ。 ・年度初め3名でスタートした0歳児は12月には10名となり、0歳児以外の年齢でも年度途中入所の受け入れをした。 ・防災では、リスクマネジメント委員会を中心に日頃からの訓練や対策等を見直す機会を設け危機管理の重要性・マニュアルの見直し、保護者への連絡方法としてよいこネットの活用した。 ・前年度に引き続き保護者会との連携を丁寧に行い、保護者会主催のバザーに変わりとしてハロウィンパーティや、収益で移動動物園・いちご劇場などたくさんのイベントの開催ができ、子どもたちにとっても楽しい経験ができた。 ・地域との関係においては仮園舎の時にできた関係の中で、ボランティアですいかやぶどう、さつまいも、大根、かぶらなどを栽培し、子ども達も貴重な体験ができた。 ・職員の育成については、処遇改善と連動したキャリアアップ研修のとなり4名の職員が受講した。 ・年度途中に新採用の職員が退職となり残念だったが、年度末の退職者はなかった。 ・保育参加や体育参観を実施し保護者に普段の様子を見ていただける機会ができ好評だった。 職員の有休消化率は、正規職員は63%、非常勤職員は70%であった。 ○課題・反省・改善点 ・管理職、特に主任・リーダー職員には後輩指導の在り方や自身の立場の再認識が必要であるとする。若い職員の保護者対応の技術を身に付ける研修を行う。 ・組織図、職務内容を理解し、組織の中でそれぞれの職務に意欲をもって取り組めるムードをつくる。また、体調やメンタル面など職員の状態把握にも努める。 ・18:30閉園となることによりさらなる職員の就業時間内での業務の終了を目指し、仕事の段取り等見直し改善を引き続き図る。休憩時間をとれるように意識改革をしていく。 ・保護者や地域に園の取り組みやその意図がより伝わるように、ホームページには動画のアップ、おたより等の写真や文章内容の充実をはかる。
ひがみや児童センター	○取り組みと成果について ・幼保連携型認定こども園教育保育要領を踏まえた法人の《全体的な計画》に基づき保育・教育を行ってきた。 ・都島第二乳児保育センターとは、行事はもとより、地域の東都島地域の民生委員主催の地域クリスマス会にも一緒に参加協力してもらった。 ・今年度も『それいゆ』より障がい児が1名入園。支援の必要な子どもの『それいゆからひがみやへ』の目標を達成することが出来た。しかし『気になる子』の保護者との共通理解が出来なかった。 ・地域貢献では、例年通り近隣病院の待合室に子どもたちの作品を展示。地域支援で東都島地域の『ゆうゆう』も協力、地域の『ひがみや祭り』『ふれあいフェスタ』参加、勤労感謝では水道局に作品のプレゼント、地域の公園の掃除等行った。 ・保護者参加行事としては体育活動参観、年長児の保育参加、夏祭り開催、運動会、発表会、卒園式等は人数や内容を検討し行い、雪滑りにも行った。 ・職員のスキルアップはキャリアアップ研修(12名)、正規職員が保育士免許を取得。今後幼稚園免許取得を勧める。 ・職員の働き方としては、産休取得職員が年間5名。体調を崩し入院し手術する職員が2名出た。幸い復帰できたが職員体制確保に苦労した年となった。派遣職員5名で補った。 ・今年度は、日本保育協会協会の研修講演、大阪市都島区ファミリーサポート提供会員養成講座講師、高倉中学校学生へ職業説明会等外部の講演、講師依頼が多い年となった。また、広報的面では、福祉新聞、大阪大地協『大地協ニュース』にも当法人とともにひがみや児童センターが掲載された。また、保護者が務める株式会社大阪朝日広告社のご厚意で就職フェアに招待いただきブースを出すことが出来た。採用には繋がらなかったが法人広報としては良い機会を頂いたと思う。機会があればまた繋げたい。 ・職員採用では実習生から採用に繋がりが10年間毎年続いたが今年は繋がる事が出来なかった。令和7年度は繋げたい。 ○課題 ・幼保連携型認定こども園に移行し4年。これからも、0歳から小学校就学前までの一貫したより質の高い教育及び保育を提供していく。 ・職員については、園の運営や働き方についてなど再度理解する。また、閉園時間が30分短くなったことで職員に作業効率、教育・保育の見直し等行い働きやすい環境作りに努めるが、保育教育の従来のもっとも大切に守っていきたい。 特定の保護者からの苦情。理解を得るためにも、保育参加、保育参観等を行いたい。 ・都島第二乳児保育センター、こども発達サポートステーションそれいゆ、ひまわりの郷と関係性を繋げていきたい。 ・今後も地域からも愛される施設を目指したい。

都島乳児保育センター	○保育運営・園児関係・事業全体 ・園児の4月入所は前年度より少なかったが0歳児が9名という、ここ近年では多い受入れ人数でスタートできた。年間の途中入所の受け入れは「0歳児の入所希望」が思ったより少なく、最終在席人数は前年度より下回った。見学者に関しては年間で70名に達した。特別支援事業対象児はいなかったものの、2歳児に多動とこだわりのある児童が2名おり、集団生活の中で個別に支援が必要となった。多動児に関してはそれ以外の「巡回訪問」や「カスタネット」の真鍋先生の助言を受けながら対応。令和7年2月には北区保健センターでの個別診断に繋げ、(認)都島児童センター進級後も引き続き個別対応を要する。 ・都島区社会福祉協議会主催の「ふれあいフェスタ」には多くの園児も参加してくれ盛況であった。近隣公園での行事も開催し、園の様子も見てもらう機会となった。 ・北部こども相談センターより状況確認連絡3件(うち2件は同じ園児の保護者に関するもの)。すべて園児の保護者の夫婦げんかによる警察の発動があり、園児への「心理的虐待」の観点から園児の生活環境の確認があった。 ・令和7年2月の「第三者評価受審(株式会社EMアップによる受審)」に向けて、6月より書類の準備、職員間での共通理解、マニュアルの見直しなどを進めた。通常業務に加えての準備であったため、園長・主任・リーダー職員で役割分担し取り組んだ。また同時期に受審予定の都島第二乳児保育センターとの情報共有や書類の確認会議などを通して、現状の確認や不足書類の作成及び見直しができる。受審結果としては「保育分野」はほぼ満点をいただき、「運営分野」では①人材育成への更なる詳細の計画 ②「評価結果」に基づく改善計画の作成などの助言をいただいた。保護者アンケートでは日頃の保育運営に関する高い評価をいただき、今後の職員の励みとなった。「大阪市保育サービス第三者評価受審促進事業費支援費」の申請も認定され、令和7年4月11日の受審結果公表後、大阪市に実績報告を行った。対象経費は362,960円、支援費金額は212,000円の予定。 ○職員体制・施設管理について ・3年ぶりの主任配置があり行事や保護者対応もより手厚く丁寧にできるようになった。また隣接の(認)都島児童センターとの連携もよりスムーズとなり、保育面・保護者支援など丁寧に行えた。 ・職員は4月時点で合計22名でスタート、4月後半で産休復職職員が増員したが、4月末で元正規職員が退職するなどの職員の異動もあった。 8月末で派遣職員(早朝勤務)が退職したが、9月には新たな派遣職員(子育て支援資格、延長対応)を採用。9月には現職員の紹介により有資格非常勤職員を採用、6ヶ月を過ぎたの継続勤務が決まったため、「職員の紹介手当」対象となる。(令和7年4月の給与にて支給予定) ・令和4年度の「高校生のボランティア体験」にて参加した学生(高校3年)が本人の希望で非常勤として勤務。保育士として勤務希望あり。 ・令和7年3月末で看護師(契約職員)の退職が決まっており、紹介業者との契約締結や他園の保護者(看護師)への採用活動も行ったが、新たな採用に結び付かなかった。 ・キャリア・アップ研修は正規職員1名が受講し終了。 ・令和7年度の職員新規採用は実習経験者なし。 ○施設設備の補修など ・職員用パソコン2台 主任用パソコン1台 新規購入。 ・保育業務システム「うえぶさくら」のプログラム更新を行ったが、当初は書式の運用や印刷方法に慣れず職員からも意見を集約しながら進めた。 ・園児用避難車 1台購入(施設機能経費にて) 使用中の1台が老朽化による錆とシートのカビが酷いため廃棄処分する。
都島第二乳児保育センター(続く)	○取り組み 令和6年度は都島第二乳児保育センターが開設51年目を向かえるにあたり、今までの保育の振り返りを行い乳児保育をより言一層深めることに着目した。1歳児では「ゆるやかな担当制保育」を導入し、今までの13人～14人のクラスを8人～9人の編成とし小チーム制で保育をすすめた。初の試みのため戸惑いもあったが、職員同士が日々、改善点を話し合いながら安全にすすめることができた。効果としては以前に比べ、新入園児が比較的早く園生活に馴染むことができていた様子だったこと、保育士自身も、自分の目指す保育が明確になったようで保育室でのコーナーあそびや、給食、排泄においても少人数制でスムーズに進めることができていた。0歳児クラスでは途中入所を積極的にすすめ、月齢でクラスを二つに分けた保育を行った。また、1歳児で途中入所したダウン症児を0歳児の保育室で受け入れし発達をみながらゆったりとした保育をおこなった。 ・今年度は、第三者評価受審を園全体ですすめることを目標とし約7カ月間かけて職員全員で評価の46項目を話し合いながら確認した。都島乳児保育センターも同時期に受審することになったので、それぞれの園で確認した後、二園が一緒に各項目について確認作業を行った。そうすることで第三者評価に対する共通意識も高まり、普段よりも職員交流することが増え改めてお互いの園の事について知ることができ新たな発見につながった。受審の当日はおむつ交換の際のパーテーションの設置などプライベートゾーンの配慮についてや、保護者対応などの詳細についても今回の受審を通して多くの気づきがあった。受審結果については保育内容は満点の評価をいただき職員全員で喜びを実感できた。 ・運動会については、例年通りひがみや児童センターとの合同開催とし、0歳、1歳児クラスも親子で参加できるプログラムを組み込むことで土曜日の行事の回数を減らし業務改善につながった。 ・土曜保育でも、ひがみや児童センターとの共同保育をすすめる、職員の土曜出勤を減らすことができ、職員同士の交流にもつながった。 ・発表会では、年齢別にそれぞれの日程を設定しすすめたが、0歳児クラスの開催時期を見直すことで後半の保育に少しゆとりがもてるようになるので来年度の検討事項とする。 ・保護者会の活動については、保護者主体になるのは難しいが、今年度の保護者会イベントでは保護者同士の「おしゃべり会」を開催し、父親の参加も数名あった。おしゃべり会については家でのあそびの内容、歯磨き、食事についてなど、意見交換をする中で父親同士の会話が弾んでいたようで、ざっくばらんに話す姿が印象的だった。 ・4階の児童館の子どもたちが、「夏まつり」のゲームコーナーの手伝いをしてくれたことをきっかけに、夕方、乳児クラスに入り児童館の子どもたちとかかわる機会が持てるようになった。園児たちは年の近い、お兄ちゃん、お姉ちゃんが大好きで保育士の誘導よりも、学童から声掛けされると素直にトイレに行くなど微笑ましい姿が多くあった。また、3月は、春休みの児童館の子どもたちと地震を想定した避難訓練を行い、実際に園児たちの避難の手伝いをしてもらうなど、同じ建物の中で生活していることの意識づけになった。

コメント(保育所2)

都島第二乳児保育センター(続き)	○今後の課題 ・夏場だけではなく、早い段階から外気の気温が上昇し、外遊びや、水遊びが十分に楽しめなかった。保育室も南側は直射日光が当たるため、エアコンの効きが悪い、段階的にエアコンの入れ替えなど快適に過ごせる空間づくりを考えていく。 ・南側の近隣の方が、枯れ草が飛んできて気になるという内容で職員に苦情を話していたため、こまめに園周りを確認しながら草抜きや側溝の掃除など児童館職員も一緒に環境整備に努めていく。 ・1歳児クラスは新入園児数が多いため園生活に慣れることに時間もおかかるししっかりと子どもはもとより、保護者との信頼関係も大事にしながら職員間で定期的に話し合い保育をスムーズにすすめていく ・2歳児クラスは、少しずつ幼児クラスへ移行できるように後半は学年クラスとしての生活をすすめていく。 ・土曜日は引き続きひがみや児童センターと共同保育を行うお互いの園児についても情報共有ができるよう努めていく ・ひがみや児童センターでの土曜保育の際にも地震発生などの避難訓練を行う、その都度振り返りを行い共通理解しておく ・地域子育て支援事業「のびのび」一時預かり事業「すくすく」と連携し、子ども誰でも通園制度を意識し、令和8年度の施行をイメージしながら、都島第二乳児保育センターとして地域支援を職員全体で考えていく。 ・保育士の定着率を上げるため業務改善を意識し休憩時間も皆が一定して取れるよう全体ですすめる。 ・職員会議という形式ではなく、普段から職員間で話し合える機会をつくり、それぞれが考えて行動に移せるような環境づくりをおこなう。 ・人口減少により、入園児と働き手も減少していくため今後も選ばれる保育園としての策を考えていく。 ・職員全体で魅力のある職場づくりをテーマとし、職員交流を設けるなど具体的な策を考え離職者0人を目指す ・児童館の子どもたちが保育園とかかわることが楽しいと感じ、将来は保育士を志望するきっかけとなるような環境づくりを心掛ける。 ・令和7年4月1日から法人内の人事異動により施設長、主任が変わるため、引き続き確認作業を怠らず気持ちを引き締めて保育を行う。
友渕乳児保育センター	○取組成果について ・友渕児童センター分園(建物2階部分)の廃止に伴い、認可定員・利用定員を変更。令和6年4月より、建物2・3階が「都島友渕乳児保育センター」となる。新体制となったが全職員が協力・分担し、更なる職員間の情報共有に努めた。 ・令和6年度は、新人職員1名を迎えてのスタート。職員間で連携を取りながら、大きな事故や怪我・苦情等もなく落ち着いて過ごすことができた。 ・4月当初は0歳児が定員割れしていたが、積極的に途中入所を受け入れ定員を満たすことができた。 ・事故防止・健康安全対策を強化し、何より子どもの命を守るために、園内外で安全研修に参加。心肺蘇生法、誤嚥に対する研修については、看護師指導のもと全職員参加。園内外の危険な場所・リスクの潜みを、日々の点検と定期点検(月1回)で明確にし、危険箇所はすぐに修理・修復を行う。 ・地域子育て支援として、屋上(室内)開放を行う。年間を通してリピーターも増え、顔なじみになることで育児相談等、話しやすい関係性もできた。また、令和7年度の入所にもつながった。 ・2歳児のみ保護者の「保育参加」を実施。保育者の普段の子どもたちへのかかわり方・指導等を実際に見て「日々の大変さに頭が下がる」「園での姿をみるよい機会」等の感想もいただいた。 ・令和6年度より、都島友渕乳児保育センター単体の「保護者会」が発足。保護者会と園が協力して、親子行事「ともパラ」を年2回行うことができた。乳児に合わせたゲームや制作・あそびを取り入れる。保護者主導で「お菓子レイ」を作成。事前作成の際には、レイを作りながら保護者同士が日頃の育児や子どものことを話す機会となる。また職員も就業時間内で手伝い保育園での様子を話しながらよい雰囲気で行うことができた。 【ホームページ・SNS(Instagram)】 ・園生活・子どもたちの成長の様子など、ホットな情報をホットなうちに伝える。(各クラス月1回以上を目標。その他、園の行事、職員ページも) ・ホームページは保護者の方だけではなく、地域に向けて園のことを知っていただくことも目的とした。園見学に来られた際「HP(Instagram)をみました。是非、入園したいです。」との声も聞かれるようになり、ホームページ・SNSでの発信し続けた努力の成果を感じられた。保護者の方からも「いつも楽しみにしている。遠方で暮らす祖父母も楽しみにしてる」と、喜びの声を頂き嬉しく思う。今後も無理のない程度に「継続」していくことを大切にしたい。＊今後も、個人情報の取り扱いには十分注意していく。 ・乳児期及び1歳以上3歳未満児の保育において、乳児でも人権に配慮した関わり・保育を行うよう、定期的に会議等で確認し合う。特に『人権』に関しては「子どもを尊重した保育」をおこなうことが「子どもの人権を大切にする」ことにつながる。乳児でも人権に配慮した関わり・保育を行うよう確認しあった。 ◎病後児保育の利用実績は55名。利用者は、法人姉妹園・近隣保育園がほとんどだが、他区からの利用も増えてきた。昨年度とほぼ同人数が利用。新規登録者も増えている。 ○課題・反省・改善点 ・リーダー職員を中心に、園の業務をスムーズに行い、活発な話し合いの場が持てるようにする。 ・保護者の方には子どもの様子等、丁寧に伝え信頼関係を深める努力を継続する。 ・個々の職員の長所を活かしチームの能力を最大限に引き出し「チームワークの向上」を図り、職員一丸となって日々の保育に従事する。 ・リーダー職員には自身の職責を再度見直してもらい、事務所との懸け橋、後輩指導の在り方、立場を再認識してもらう。 ・就業時間内に業務を済ませ、全職員(管理職も含め)定時退社をする。業務内容は改善しても、子どもたちに提供する保育の質は落とさないよう職員間で話し合い、保育内容を充実させる。 ・【令和7年度】第三者評価を受審し、利用者の意向を把握、園の強みについて積極的にPRする。評価結果を公表することで、情報提供を行うとともに、サービスの向上を目指す。保育園選びをする保護者だけでなく、就職活動をする学生等に公表することで、運営の透明性を示し選ばれる保育園を目指す。 ◎病後児保育利用者数は50名を目標とし、法人各園はもちろん、地域・区外の方も積極的に受け入れをしていく。 ◎法人各園・都島区近隣園への呼びかけを行い、新規登録者・新規利用者の獲得に努める。

コメント(沖縄)

渡 保 育 園	・ホームページ・養成校訪問で積極的に職員を募集していった。 ・実習生を積極的に受け入れ、部分実習等のアドバイスに親身になって対応していった。 相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、就職に繋げていく。 ・外部研修を可能な限り受講させ、法人内研修は新人研修、虐待、個人情報、守秘義務、法人の成り立ち、設立者の思いを知りより良い保育を目指すための共通理解を図った。 ・特色である郷土文化伝承の琉舞やエイサー、旗頭等継続して取り組んでいる。その活動を知り、10月に保育士職員が就職している。 ・保育においては、年中児・年長児から体育指導、絵画指導等の教育部分を継続していく。 ・駐車場の確保が難しくなっている。近隣の方をお願いして数台の駐車場を確保してもらっている。 英語教室では小学生をはじめ、地域の子どもたちにも学びの場を提供している。 ・英語教室への加入が増え、5歳児まで継続する園児が増えつつあるので、継続していくようにする。 ・気になる子への面談を積極的に行い、就学に向けて保護者と一緒に親身になって取り組んでいった。 ・子育て支援の周知や育児相談会を開いて保護者や地域の方々に園をアピールしていった。 ・実践形式の研修機会を多めにつくり、職員の質向上を図っていった。 ・ホームページの充実を図り、保護者や外部の方が閲覧し、保育園の良さを感じてもらうよう努めた。
松 島 保 育 園	・ホームページ・養成校訪問で積極的に職員を募集していった。 ・実習生を積極的に受け入れ、部分実習等のアドバイスに親身になって対応していった。 その実習生の紹介で、就職見学に来ていた子が今年度渡保育園に就職している。 (松島保育園は駐車場の確保ができなかったため、渡保育園を紹介した) ・保育においては、年中児・年長児からはみわらび館のピアノ教室、また体育指導、絵画指導、英語教室等の教育部分を継続していく。英語教室では小学生をはじめ、地域の子どもたちにも学びの場を提供している。 ・職員駐車場がなく、職員確保が難しくなっている。近隣の駐車場を探しまわっているが、どこもいっぱいなかなか見つからない(一台は確保できたが、何年も駐車場を待っている浦添から通う職員に引き渡したので、今のところ空きの駐車場がない) ・特色である郷土文化伝承のエイサー、旗頭等継続して取り組んでいった。 ・園内研修では法人の成り立ち、創設者の思い、現理事長の方針を全職員が知ることでできる内容で進めていった。 ・ホームページの充実を図り、保護者や外部の方が閲覧し、保育園の良さを感じてもらうよう努めていった。 ・園を見学をする方が多いので、入所手続きの時期や子育ての悩みを聞き、入所を積極的に勧めていった。 ・4歳児クラスからこども園に転園する子が毎年数名いるので、5歳児保育プログラムの充実を図り、就学までのサポートを行うように努め、4歳児クラスの保護者に松島保育園の幼児教育の良さをアピールしていった。

(3) 児童厚生施設・子育て支援事業

児童厚生施設-教育クラブ(都島児童センター)

クラブ名	講師	レッスン	時間	対象児童	年間延利用数
英語	2	水曜日	13～18時	幼児～小学生	1,152
絵画	1	火・金曜日	13～18時	幼児～小学生	1,326
バレエ	1	水曜日	13～18時	幼児～小学生	1,379
書道	1	木曜日	14～18時	幼児～小学生	1,641
ピアノ	5	火～金曜日	15～18時半	幼児～小学生	1,357

子育て支援事業の実施状況

	①一時保育事業 (一時預かり)	②地域子育て支援 拠点事業	③病後児保育事業
友渕児童センター		大阪市委託:ひろば型	
成育児童センター		大阪市委託:ひろば型	
都島第二乳児保育センター	大阪市委託	大阪市委託:センター型	
都島友渕乳児保育センター			大阪市委託
渡保育園	法人独自		
松島保育園	法人独自		

①一時保育事業

「すくすく」(大阪市委託事業)

延べ利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一時預かり事業	78	93	106	101	104	103	119	107	105	116	126	131	1,289

法人独自事業

延べ利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
渡保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松島保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②地域子育て支援拠点事業

センター型-「地域子育て支援センターのびのび」(大阪市委託事業)

地域支援活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	21	21	20	22	18	19	22	20	20	19	18	19	239
延べ利用者数	大人	113	105	104	127	91	132	221	182	183	189	173	1,790
	子ども	117	102	107	128	102	135	224	181	182	187	172	1,814
相談・援助活動	基本的な生活	発達・発達	医学的問題	生活環境	育児方法	その他	計						
件数	128	82	7	7	119	84	427						

ひろば型-「フレンドリーともぶち」(大阪市委託事業)

子育て親子交流促進	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	21	21	20	22	18	19	22	20	20	19	18	20	240
延べ利用者数	大人	114	106	142	145	120	142	182	176	173	191	174	1,859
	子ども	117	111	152	152	122	139	190	176	168	193	176	1,894
相談・援助活動	基本的な生活	発達・発達	医学的問題	生活環境	育児方法	その他	計						
件数	389	496	59	61	176	373	1,554						

子育て支援講習等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	6	6	6	9	7	6	6	7	7	7	8	7	82
延べ利用者数	大人	17	12	23	36	24	15	17	29	38	35	31	307
	子ども	17	13	22	38	25	13	19	29	35	35	31	307

ひろば型-「フレンドリーせいいく」(大阪市委託事業)

子育て親子交流促進	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	21	19	20	22	18	19	22	21	20	23	17	19	241
延べ利用者数	大人	240	228	277	247	173	252	337	255	306	269	266	3,199
	子ども	241	235	280	248	181	256	345	266	330	281	281	3,310
相談・援助活動	基本的な生活	発達・発達	医学的問題	生活環境	育児方法	その他	計						
件数	118	50	11	8	25	7	219						

子育て支援講習等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
延べ利用者数	大人	15	8	13	8	5	5	7	12	4	4	6	92
	子ども	15	8	12	9	5	5	7	13	4	4	6	93

③病後児保育事業

病後児ルーム「ひまわり」(大阪市委託事業)

定員4名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	15	6	3	3		11	9	2	2			4	55

コメント(児童厚生施設・子育て支援事業1)

教育クラブ	○取組・成果について ・利用人数はクラブによって前年度に比べ増減は見られるが、講師自身が園児をしっかり指導出来る範囲内で人数を決定している状態である。 ・講師との連携がスムーズになり、また、講師から直接保護者へ発信することが定着した。 ・ピアノクラブの発表会を3/1(土)に行い、子どもたちの日頃の成果を見ていただく良い機会となった。 ・バレエクラブの発表会は、3/22(土)に、都島区民センターで行った。令和7年度は、都島児童センターで行う予定である。 ○課題 ・各クラブとも体験してから実際に入会するという流れだが、クラブによっては安易に入会し退会するという園児もいるので ・保護者が子どもとしっかり話をし、継続することができるのか見極めて入会できるようにしていく。 ・習字クラブの講師が高齢になってきているので今後のクラブ運営について検討していく。
一時預かり事業	◇年間目標利用者数について…目標数1,200名～1,300名を達成 ◇利用理由の傾向…年間を通して、0歳児の問い合わせ、利用が多く、特に1月以降は一日の利用者の半数が0歳児という日が多かった。育休を延長される方が多いのも理由の一つに挙げられると考える。また、昨年度2歳児が3歳の誕生日に合わせて幼稚園に入園するケースが多かったが、今年度は早生まれの子どもも多かったこともあり、比較的その傾向は少なく、3月まで継続的に利用される方が多かった。 ◇自由契約児…産後うつ傾向が見られた母親から子ども(府外在住)を義姉が預かり、姉を都島児童センター(夏期のみ)で、妹を都島第二乳児保育センター(9月から3月)で預かるケースがあった。 ◇利用者の居住地域…都島区(76%)北区(7%)城東区(8%)旭区(6%)その他の区(1%) 都島区内では、本通(25%)友渕(20%)北通(12%)善源寺(11%)内代(9%)高倉(9%)中野(4%)中通(3%)南通(3%)御幸(2%)毛馬(2%) 旭区在住の方からの情報として、旭区の一時的預かり事業は、休室がほとんど。また、都島第二乳児保育センターの評判が口コミ等で良いため、区を超えて利用を希望しているとのこと。 ◇進級先について…都島児童センター・友渕児童センター・桜宮児童センター・ひがみ児童センター・都島第二乳児保育センターに途中入所、令和7年度入所が7名。利用者の1割が都島友の会へ入所となった。 ○今後の課題 ◇新規の問い合わせが、多い時で10件近くある月もあった。新規の利用初日が重ならないよう調整を行っているが、保育現場としては負担も大きい。受付時の利用理由の聴き取りから『優先すべきケース』を判断し、クラスと話し合いながら利用者も現場の保育士も安心して受け入れを行えるようにしていきたい。 ◇令和8年度スタートの『子ども誰でも通園』に向けて、他法人でも動きが出てくることを踏まえ、例年通りの問い合わせ状況から変化がある一年になると考えられる。その状況を分析しながら、受け入れ方を検討していきたい。 ◇令和6年度も地域子育て支援センター『のびのび』やつどいの広場『フレンドリーともぶち』を利用する方が一時預かり事業すくすく組を知り、利用を希望される方が多かった。今後も情報共有しながら子育て家庭のサポートをしていきたい。
地域子育て支援拠点事業センター型	(地域子育て支援センターのびのび) ◇利用者について…年間登録者組144(うち新規120組)。子育てに関する相談件数397件。毎日の利用者数8組前後。 ◇新規利用のきっかけ…ブックスタート・ホームページ・Instagramの周知活動 ◇利用の様子…親子で遊んだり、親同士、育児の情報交換を行いながら過ごしている。あそびの内容も体を動かすあそびや手先を使うあそび、家庭でも楽しめるあそびなど日々変化に富んだのびのびになるよう工夫した。定期的に絵本を親子で楽しめる時間も設けることで、絵本の貸し出しにもつながっている。 ◇三部入れ替え制…感染症対策として引き続き入れ替え制を実施し、合間の時間で室内の消毒と玩具の種類の入れ替えを行っている。 ◇子育て支援に関する講習会…親子でいろいろなあそび(新聞あそび・ビール箱のガスコンロ作り・クリスマス会・くつした人形作り)を楽しみながら子育てについておしゃべりをしたり、子育ての悩み「こんなときどうしてる？」をわかちあうなどし、交流を深めている。「あつという間だった。」「仕事が楽しかった。」「知りたい情報が得られた。」と好評。 ◇地域支援活動…3か月健診に出向。参加者に都島区の子育て支援施設のリーフレットを手渡し、施設への参加を積極的に呼びかけている。また、ブックスタートの周知を独自に作成した案内のリーフレットを手渡し、丁寧に伝えることで参加につながることができた。 ◇ブックスタート…毎月主に第二木曜日に実施。(申し込みが多い時は二部制に) ◇ふたごの会『はぐはぐ』…毎月主に第一月曜日に実施。先輩ママからの経験談やアドバイスは育児の助けになると好評。また、都島区保健福祉センター分館で行われる『多胎児のためのプレママプレパパ教室』に出向し担当保健師とつながることができた。 ◇健康相談…2か月に一度実施。看護師と話をしながら発育や予防接種、感染症の相談ができると好評。 ○今後の課題 ◇地域子育て支援拠点事業の取り組みを地域にひろげ、子育て中の親子と地域をつなげる役割を果たしていきたい。 ◇さまざまな機関と連携を図りながら子育て支援の輪をひろげていく。

コメント(児童厚生施設・子育て支援事業2)

地域子育て支援拠点事業ひろば型	(フレンドリーともぶち) ・離乳食説明会、看護師による講座、ママの為のストレッチ・ベビーサイン・ベビーヨガの講習会を行い、子育てママのニーズを随時キャッチしながら今後も専門分野の講師を依頼し、講座を取り入れながら、友渕児童センターと連携し、子育て支援の充実を図っていく。 ・インスタグラムの発信で利用者認知が増えた。やはり今の保護者世代はSNSで情報をとらえていると実感する。講話などイベントの周知配信をおこない、フレンドリーともぶちをより多くの方に知ってもらおうツールにしたい。 (フレンドリーせいいく) ・以前同様の運営に戻った1年であった。1度に10組以上の利用日も増えたが、保護者の意識が以前同様とは違い、室内のスペースを確認し入室をしない方もいた。こちらからは、入室をお断りするということではなく、制限も設けていなかったが保護者自身で入室の有無を決定する形で混乱はなかった。 ・講座は外部の講師、イベントはスタッフが開催すると決めたことで、内容を考える際に分かり易くなった。外部の講師が行う講座については、イベントに比べると申し込みは少ない。イベントで特に人気のあったものは『ハロウィンの撮影会』『クリスマスの撮影会』だった。1.5m四方に季節の壁面を貼り、その前で撮影するだけのイベントだが初めての来所、父親との来所としてはハードルが低いようである。 ・スタッフ全員が保育士免許取得者であることから、保護者への対応が良く、他施設では「スタッフへ相談をしてもその返答が答えになっていない」などのクレームがあったようだが、相談に対して答えを出す返答はしておらず、保護者が安心できる受け答えや保護者自身で考え答えが出せるような話し方のスキルがあることで円滑に運営ができていた。また、父親がお子さんと2人でも来所しやすい雰囲気との声もあり、育児休暇を取っていた父親が遠い毎日のように来所していた。 ・城東区が主催するわくわく城東フェスティバルの舞台担当として参加し、地域の親子に向けて体操や手遊びを他のつどいの広場のスタッフとともに活動をした。 ・3年に1度行われる事業評価については全項目A評価であった。 ・園ホームページにつどいの広場の講座やイベントの様子をアップしたが閲覧人数は限られていた。 ○今後の課題 ・保護者同士が自発的に活動ができるきっかけを作り、保護者同士が交流を持てる企画等を考える。 ・父親の来所が少し増えると予測されるので、授乳やおしめ交換の場はしっかり分離でき、覗かれることのないようにカーテンや仕切りの設置をする ・講座は保護者の求めるものばかりでなく、保護者に知って欲しいと思う内容も考えた上、参加者が増えるよう講座内容やスケジュールを分かり易く広報する。 ・スタッフの入れ替えがあっても、これまでの雰囲気や対応など引き継がれるようにしたい。
病後児保育	友渕乳児保育センターのコメント欄に記載

(4)こども発達サポートステーション それいゆ

月別利用延べ園児数(通所支援事業) 就園児療育の状況含む

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
465	512	478	505	444	439	487	442	470	451	430	417	5,540

区別契約児童数(計33名)

都島	城東	鶴見	旭	その他
7	6	11	4	5

職員数(保育所訪問支援・障害児相談支援事業含む)

正規職員					非常勤職員				合計
施設長	児童発達支援管理責任者	児童指導員	保育士	計	常勤並	短時間(契約含む)	公認心理師	計	
1	1	1	4	7	1	7	1	9	16

令和7年3月31日現在

固定資産取得価格一覧

摘 要	金 額
パソコン 6台	1,069,200
マスセットプール	239,000
1 件	1,308,200

主たる修繕

各所修繕

障害児相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス利用計画書作成 モニタリング件数	13	4	5	8	10	23	9	8	5	8	10	9	112

保育所訪問支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス利用者数	0	3	1	0	1	1	2	1	1	2	0	1	13

大阪市障がい児療育等支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス利用者数	1	0	1	3	3	1	0	2	0	2	1	1	15

こども発達サポートステーションそれいゆ

【取組・成果】

○通園児数等

令和6年度の新入園児は7名、在園児と合わせて29名でスタートした。1月には2名の新入園児あり、併行通園2名を合わせて、年度末の契約児童は33名になった。児童発達支援事業者が増えたことにより、平日に他の事業所を利用する園児もいることから、1日平均24名の利用をめざし、定員以上の入所や併行通園の実施で補うよう取り組んだが、令和5年度として比較して、契約児童数、延べ通園児童数ともに減少している。

・令和6年度 契約児童数: 33名(R5: 40名) ・ 延べ通園児数: 5, 540名(R5: 6, 202名)

○療育

国が定める「児童発達支援ガイドライン」に基づき、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域等を盛り込んだ「個別療育支援計画」を作成し療育を行い、合わせて下記の療育に取り組んだ。

- ・専門的療育: 言語聴覚士や作業療法士(令和6年9月～)による専門的療育。
- ・体育指導 : 体育指導の講師により体の動かし方を指導。職員に身体を動かす際の補助の仕方等を教授。
- ・食育 : 簡単なクッキングや、園庭で育てた苺やきゅうり、さつま芋、トマト等を育て収穫する楽しみを経験した。直接、食材に触れることで、普段は食べられない野菜を食べる姿が見られた。保護者に対して当法人の管理栄養士から「食育」について学習会を実施した。

○保護者支援

- ・学習会: 保護者向けの学習会を8回(内4回は外部講師(岐阜聖徳学園大学専任講師等))実施した。
 - ・テーマ: 「子どもとの関わり」「適切な行動を増やす子どもとの接し方」「家庭でできる運動療法」等
 - ・卒園児の保護者を講師に招き、体験談を聞く会を開催し、将来の見通しができたと、好評であった。
- ・懇談会・クラス会:
 - 談会を9・3月に2回開催、「個別療育支援計画」の評価やモニタリング、園での生活について保護者に説明した。
 - クラス会は6・11・2月に3回開催し、資料や動画(園生活を15分程度)により園の様子を知っていただく。
- ・保護者からの質問等
 - 「連絡ノート」に質問枠を作り、保護者とのやり取りがしやすい状況を作るとともに、必要に応じて電話で個別対応。日々の園での子どもの様子を1～2週に1回の頻度でブログをあげるようにし、保護者への情報提供に努めた。

○主な行事

- ・家族ふれあいDAY(5月)
 - 新園児と在園児、その家族と一緒に遊びながら、それいゆでの生活を知っていただき、家族の交流も図った。
- ・秋のがんばるDAY(9月)
 - 舞洲障がい者スポーツセンターで、親子と一緒に運動やスポーツを楽しんだ。
 - 「駆けっこ」「パラバルーン」「ボウリング」「大型トランポリン」「プレイルーム等、思い思いに体を動かして遊んだ。
- ・同園会まつり(10月)
 - 在園・児、卒園児とその家族、ひがみや児童センターの園児等、約140名が参加し、賑やかな1日となった。

○職員配置

指定基準の配置に加え、「児童指導員配置加算」「専門的支援加配体制加算」が取れる職員を配置。

○職員のスキルアップ

- 資格職員の確保と療育スキルの向上のため各種研修や講習会の受講を進めた。
- 主な受講研修
 - ・児童発達支援管理責任者基礎研修(1名) ・相談支援従事者初任者研修(1名)
 - ・強度行動障がい支援者養成研修(基礎: 1名)(実践: 1名)
 - ・ポーターズ早期教育プログラム(1名) 等

○感染症対策

感染症対策の取り組みとしては、園全体の消毒や、外部からの入室時に手を消毒する等を継続している。

○ひがみや児童センターとの交流

合築のひがみや児童センターの園児と交流する機会を設け、それいゆ園児と一緒に過ごした。それいゆの園児にとって、ひがみやの園児の動きや会話がモデルとなっている。

【今後の課題】

- ・毎日通園児の減少への対応(保育所等の併行通園の受け入れで対応)。
- ・児童発達支援センターの中核的機能の発揮に向けた検討(常勤専任職員の配置確保)。
- ・児童発達支援管理責任者や相談支援専門員等の有資格職員の確保(計画的な研修の受講)。
- ・報酬改定等も伴う事務が増えるなか、業務の効率化。

障がい児相談支援事業
【取組・成果】 ・新たに「相談支援専門員」を配置したが、それいゆの児童発達支援(療育)との兼務なため、担当できるケースの数は少なかった。 ・保護者の方やお子さんの状況に合わせて、区役所(子育て支援室)や学校等との連携し、ケース会議を行いながら、支援計画の作成やモニタリングを実施するとともに、家族支援に向けた情報共有や機関連携について協議を行った。 【課題・改善】 ・相談支援の更新時期(受給者証の更新時期)とモニタリング時期が3月と9月に集中することで繁忙となっている。都島区役所のシステムの都合で変更できないが、引き続き、区役所に改善を求めていく。 ・引き続き、相談支援専門員の増員に努めたい。
保育所等訪問支援事業
【取組・成果】 ・5件の契約となり、年間で15回の訪問を実施した。それいゆに通園していた児童や、相談支援をそれいゆが担当している児童、巡回相談から関わっている児童がおり、評価や相談支援との連携がしやすかった。 ・訪問先は地域の小学校が4件、法人の児童センター1件であった。所属先を訪問して行動観察することで所属先と児童の様子や特性を共有し、支援方法の提案を行った。
大阪市障がい児療育等支援事業
【取組・成果】 ・前年度からの登録者25人に加え、11人が新たに登録し合計36名となった。今年度末で卒園となったり、年度内に福祉サービスに繋がったのは15人であった。訪問療育は15件実施した。 ・引き続き、法人施設を中心に保護者や保育園から申し込みを受け日程を調整し、順次巡回相談の支援に取り組んだ。 ・現場の職員が児童に対する対応の困りごとや児童の特性や園生活での支援方法などのアドバイスを受けることで、児童が園生活を過ごしやすく安定することにつながっている。 ・今年度は保護者を通さない所属園からの依頼が6件、保護者からの依頼が9件であり、保護者からの依頼の増加が見られた。所属園と連携をしながら保護者支援を行い、より園児の生活の安定につながった。 ・本事業を利用後、それいゆや都島デイサービスの療育支援に繋がった件数は4件あり、他の福祉事業所に繋がった件数は2件であった。

(5) 児童発達支援・放課後等デイサービス

＜都島児童デイサービス＞

月別利用延べ園児数(児童発達支援)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
56	62	61	60	59	60	61	62	63	57	57	45	703

区別契約児童数計(14名)

都島	城東	鶴見	北	その他
13	0	1	0	0

月別利用延べ園児数(放課後等デイサービス)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
50	64	62	65	51	56	57	50	55	51	50	56	667

区別契約児童数計(12名)

都島	城東	鶴見	北	その他
12	0	0	0	0

職員数

正規職員				非常勤職員			合計
児童発達支援 管理責任者	保育士	その他	計	常勤並	短時間	計	
1	2		2	0	3	2	4

令和7年3月31日現在

主たる修繕・整備等

玄関前テント改修

コメント(児童発達支援・放課後等デイサービス)

・児童発達支援では、都島児童センター、友渚児童センター、ひがみや児童センター、桜宮児童センター、成育児童センターの年長・年中児計14名の併行通園児の療育支援を行った。所属園に送迎を行うことで、利用しやすくなっている。同じ法人の児童の情報共有を目的に6月～7月にそれぞれの所属園に出向き、各園での子どもたちの状況や課題について確認し、支援策の検討を行った。

・放課後等デイサービスでは、小学校1年生から6年生までの12名が利用。令和6年度は、社会的な自立に向けた力をつけていくことを目的とし、学習中心ではなく総合的な療育内容(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域に)に沿った内容に変更し、個々に合わせて支援を行った。

(6) 友渚地域在宅サービスステーションひまわり

職員数(パート含)

施設長	生活相談員	看護職員	介護職員	介護支援専門員	その他	計
1	1	2	8	3	6	21

令和7年3月31日現在

◆デイサービス事業

(延件数)

事業内容		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
定員(人/日)		25	25	20	25
通所介護延べ利用者数		5,164	4,919	5,308	5,419
通所介護加算内容	入浴加算	3,612	4,042	4,552	4,588
	個別機能訓練加算			3,865	4,824
	中重度者ケア体制加算	3,949	4,810	476	546
	サービス提供加算	5,164	4,919	5,308	5,419
介護予防通所介護延べ利用者数		731	437	595	534
介護予防加算内容	運動機能向上加算	0			
	サービス提供加算	731	437	595	534

◆在宅介護支援サービス業務

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
相談実績		38	35	31	30
内訳	来所	5	2	1	1
	電話	32	23	20	25
	訪問	0	10	10	4
	その他	1	0	0	0

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
テレビ	124,800
1 件	124,800

主たる修繕

消防設備改修工事
1階清掃、クロス工事他
浴槽制御盤交換

コメント(デイサービス・在宅介護支援サービス)

取組み結果

令和6年度は、1日利用人数19.1人を目標にスタートし、居宅支援事業所への営業活動を強化した。リハビリ室のチラシや行事写真を持参し、訪問先で積極的にアピールした結果、21名の新規利用者を獲得。年間一日平均利用者数は19.2人となり、目標をわずかに超える実績を達成した。

年度途中でリハビリ室を1階から2階に移設。これにより、利用者がリハビリを受けやすくなり、スタッフの見守り体制も充実。リピーターが増加し、特にリハビリを重視した利用者が定着した。また、利用者の希望に応じた送迎時間調整などにより、他施設からの転入者も増加した。

男性利用者への対応を強化した。水曜日は男性利用者が多いため、男性の新規利用者は水曜日に受け入れる方針を取った結果、男性利用者の本利用化が進み、登録者の24人中10人が男性となった。

柔軟な受け入れ態勢の強化

利用困難と思われる利用者についても、必ずお試し利用を受け入れ、ケアマネージャーとの信頼関係を深めた。入浴のみの短時間利用や、送迎時間の調整に柔軟に対応した結果、5名の新規利用者を獲得。利用者一人ひとりのニーズに応じたサービスを提供した。

活動内容の周知

施設内の動線を見直し、リハビリ室を2階に移設。これにより、利用者がリハビリを受けやすくなり、スタッフの見守り体制が強化された。また、業務の効率化を図り、利用者がいる時間帯に一緒に過ごせるようにした。レクリエーション活動も活性化し、毎月の行事の写真をホームページやInstagramで更新。施設前の掲示板には行事の写真や昼食メニューを掲示し、通行人へのアピールとなった。

地域との関係のアプローチ

毎月1回行っている「おついたち」食事サービスは、日曜日を除く9回実施し、延べ61名の地域住民に参加してもらった。参加者からの呼びかけで、洗濯やブローを手伝ってくれるボランティアが7名となり、地域とのつながりが強化された。また、ボランティアの特技を活かしたイベント(俳画、クラリネット演奏、二胡演奏、サックス演奏など)を開催し、利用者を楽しませた。

高齢者施設との連携

毎月行っている高齢施設会議により、友渚町の高齢人口が多いことがわかった。そこで、訪問介護事業所を友渚町に移転し、地域福祉の拠点となる準備を進めた。ひまわり、ひーぐるま、ひまわりの郷の3施設間で連携し、職員が不足している際にはお互いにフォローし合う体制を整えた。6年度はひまわりの郷の入浴支援を実施した。

防災・事故対応

災害時でも対応できるよう訓練を実施し、備蓄品を購入。福祉避難所として機能する体制を整え、非常時でも利用者を守れる準備が整った。

○令和7年度からの展望

令和7年度から、訪問介護事業とデイサービスを統合し、地域福祉拠点としての機能を強化。統合により、効率的な人員配置が可能となり、訪問介護とデイサービスの連携を強化。地域密着型のサービスを提供し、利用者の増加を目指す。サービスの質を維持・向上させるため、スタッフ教育や研修を充実させる。

○来年度に向けての課題

人員確保と定着率の向上

デイサービスでも訪問介護同様に人員確保が課題。安定した人員体制を築くため、採用活動を強化し、定着率向上に向けた環境作りが求められる。スタッフの負担軽減のため、業務の効率化やICT活用が重要。

新規利用者の獲得とニーズ対応

利用者数増加を目指し、営業活動を強化。地域ニーズに応じたサービス(送迎時間調整、短時間利用など)を提供し、新規利用者を獲得。リハビリ中心のプログラムに力を入れ、男性や若年層の利用者受け入れ体制を整える。

地域貢献活動と連携強化

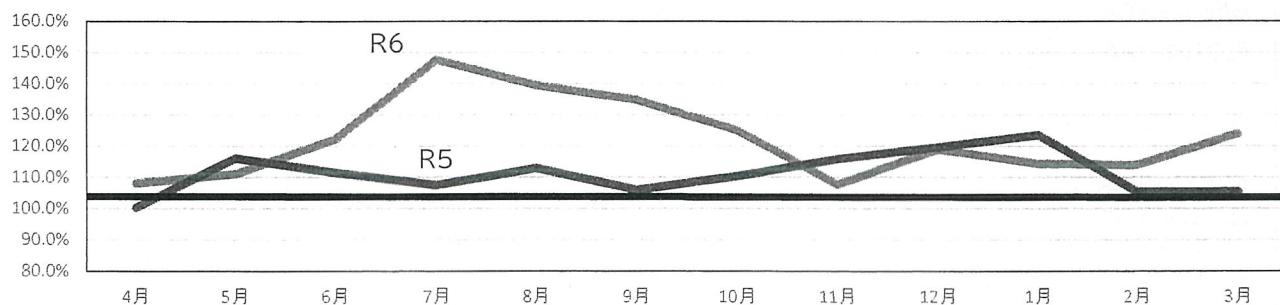
「おついたち」食事サービスやボランティア活動を推進し、地域とのつながりを深める。地域イベントや住民との交流を増やし、地域密着型の福祉サービスを提供。近隣施設との連携を強化し、地域全体での福祉活動を活性化。

(7) 特別養護老人ホーム ひまわりの郷

○短期入所生活介護事業（年間延利用者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5延利用者数	271	324	301	300	315	286	308	313	334	345	275	294	3,666
R5稼働率(%)	100.4%	116.1%	111.5%	107.5%	112.9%	105.9%	110.4%	115.9%	119.7%	123.7%	105.4%	105.4%	111.3%
R6延利用者数	292	310	330	412	389	364	349	291	332	319	287	346	4,021
R6稼働率(%)	108.1%	111.1%	122.2%	147.7%	139.4%	134.8%	125.1%	107.8%	119.0%	114.3%	113.9%	124.0%	122.1%

短期入所稼働率



コメント（短期入所）

稼働率を上げるため、集計会議を定期開催し、登録者確保に力を注いだ。令和5年度と比較して、入所入院者数は増加したが、短期稼働率は空室削減効果で増加であった。しかし、施設全体の稼働率が低下したため、通常ショート人数を調整し、ロングショートの割合を増やしながら、登録者確保に努める課題が残っている。

○社会貢献事業

コメント（社会貢献事業）

社会貢献事業では、生活課題を抱え、制度の狭間におられる要援護者に対して、相談活動をおこない必要に応じて経済援助を行うことで、自立生活を支援している。財源は、府下の特養から集められた拠出金をもとに、現物給付を行っている。関係施設との連携により、要援護者の連絡(情報)が提供される。今般の新型コロナウイルスによる影響により、新たな生活課題も生じてきていると思うが、社協の「生活自立相談窓口」なども充実しているためか、相談件数が減ってきているのが現状である。継続的に地域の方への事業の周知を行い、更なる事業の認知度の向上をはかることが課題である。

○訪問介護ひーぐるま

職員数(パート含)

管理者	提供サービス責任者	介護職員	その他	計
1	2(1)	4	1	7

令和7年3月31日現在

◆訪問介護事業

内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度
定員(人)	40	40	40
契約者数(3/31時点)	48	51	52
身体介護利用回数	1,615	1,653	1,723
生活援助利用回数	2,863	2,946	3,187
自費サービス延べ利用回数	201	254	187
利用回数計	4,679	4,853	5,097

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
電動自転車	114,130
1 件	114,130

主たる修繕

各所修繕

コメント(訪問介護)

○取組み結果

年度初めにスタートした利用者数は51名で、途中、利用者の入院や施設入所によるサービス終了があったものの、新規利用者の獲得に成功し、最終的に令和7年3月末には登録者数52名となった。特に、新規利用者の獲得においては、ケアマネージャーとの密な連携を強化し、地域に密着したサービス提供を進めたことが功を奏し、安定的な利用者の増加を実現した。

また、訪問介護サービスにおいては、利用者の多様なニーズに柔軟に対応した。特に年末年始の祝日営業や、看取り期間中の週末訪問等のニーズに応えた。また、看取りのケースに関しては、利用者やその家族にとって、非常に重要なサポートであり、この対応が信頼関係を構築する大きな要因となった。看取り対応を通じて、利用者からの信頼を深め、サービスの質向上に繋がったと感じている。

さらに、訪問介護員のスキル向上を目指して、毎月の事業所内研修を実施した。研修では、実践的な技術向上に加え、介護業務の効率化や心身のケアに関する内容を取り入れ、スタッフの能力向上に努めた。また、訪問介護処遇改善加算(Ⅰ)や特定事業所加算(Ⅱ)も取得し、安定した事業運営の基盤を作ることができた。これにより、スタッフの待遇が向上した。しかし、訪問介護員の人手不足が課題となった。特に退職者や産休を取得したスタッフが多く、採用活動を強化したが、応募者の集客には限界があった。人手不足は引き続き事業運営において大きな課題となっており、柔軟な勤務体制や職場環境の改善が急務であると感じている。

○来年度に向けての課題

訪問介護員の人員確保

訪問介護員の確保が最優先課題であり、安定した人員体制を築くために、採用活動をさらに強化し、職場環境や労働条件の改善を進める。柔軟な勤務体制を導入し、働きやすい職場づくりを目指す。

訪問件数の増加と営業活動の強化

新規利用者獲得のための営業活動を強化し、地域ニーズに応じたサービスを積極的に提供する。特に、看取り対応や深夜・早朝対応といった特殊なニーズに応じたサービスを強化し、利用者数の増加を図る。

○令和7年度からの展望

令和7年度からは、訪問介護事業とデイサービスを統合し、地域福祉の拠点としての役割を強化する。この統合により、サービスの効率化と人員の最適化が進み、より多くの利用者に質の高いサービスを提供できる体制を整える。地域密着型のサービスをさらに推進し、利用者の増加を目指すとともに、地域貢献活動を強化して地域との信頼関係を深めていく。

3. 公益事業

(1) 居宅介護支援事業

職員数(パート含む)

施設長	管理者	介護支援 専門員	計
1	1	2	4

令和7年3月31日現在

介護予防サービス計画（ケアプラン）対応延べ件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
介護予防支援プラン	336	269	265	328
初回加算	14	3	5	13

介護サービス計画（ケアプラン）対応延べ件数

介護度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
要介護1・2	569	547	451	436
要介護3・4・5	320	320	265	227
合計	889	867	716	663
初回加算	23	10	11	17
特定事業所加算	0	0	0	
退院退所加算	7	1	0	
認知症加算	—			
独居高齢者加算	—			
入院時情報連携加算	17	0	3	4
小規模多機能連携加算	0	0	0	

コメント（居宅介護支援事業）

◇今後の課題

・令和6年度は野崎を管理者に3人(常勤換算2.4人)体制でのスタートとなった。今後、デイサービスの利用者獲得の為に人員の増加が課題となっている。また、地域包括支援センターからの依頼が多く、全体の件数に対する要支援利用者の割合が多いのが特徴である。収入増加の為に、要支援利用者の件数を減らしつつ、要介護利用者の件数の増加を目指す必要がある。

◇高齢施設との連携

・新規の利用者に関しては、必ずひまわり、ひーぐるま、ひまわりの郷の利用を促しつつ体験利用をすすめている。また、利用が定着している方へは、1日でも多く利用してもらえるように声をかけている。また、配膳や朝の利用者の受け入れ、スタッフがすくない時の見守り等、空いた時間はデイサービスのフォローをおこなっている。

・他事業所との情報交換や新規事業所の見学等しながら区内の施設の情報収集に努める。

(2)比嘉正子地域貢献事業研修センター

職員数

正規職員(嘱託含む)	非常勤職員
相談員	
	(1名兼務)

子育て・障がい・介護なんでも相談室「ひまわりネット」

相談受付		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	電話	7	2	3	0	2	2	1			3	5	2	27
	メール							1	11	13	1	1		
	来所		2				1	2	1	1			3	10
	家庭訪問													
	伴走	3												3

研修・講座

在宅子育て支援関係	32
社会福祉関係	
職員(保育)研修関係	
防災関係	1

災害支援(11ね!物産展)

実施回数	0回
—	—

福祉人材登録

登録者数	0
雇用者数	0

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
トイレ改修	1,243,610
複合機	355,080
屋上ステップ台	237,600
パソコン 2台	256,300
件	2,092,590

主たる修繕

カーテンレール取替
エレベーター修理
スライド扉修繕

コメント(研修センター)

すべての人が健康で文化的かつ快適な生活が守られ、豊かな人間生活の実現を目的としている。
目標としている「専門機関への橋渡し役となり、より数居の低い地域の相談窓口として「心」の居場所」となり、世代を超えた居場所を目指し、地域の開かれた社会的資源となれるよう取り組みたい。

○取り組み

- ・人材育成として、大阪府民間社会福祉事業振興基金助成(アウトリーチ型研修助成事業)を受け、社会福祉の理解を深める、防犯、コミュニケーションなど分野で実施。
- ・主な相談内容:心の病気・生活不安・育児不安。相談ツールとしてメールや電話相談も可とする。
- ・関係機関との連携⇒複合的課題を抱える家族(世帯)への支援:都島区要保護児童個別ケース会議
生活支援課:生活保護申請の援助、都島区生活自立相談窓口
子どもの救済:都島区虐待担当・子ども相談センター
社会貢献事業:都島区社会福祉協議会
- ・広報活動⇒ホームページ・facebook活用し、ひまわりネットの活動を発信。
- ・在宅子育て家庭「子どもと一緒にしろくまヨガ」12回(月2回)
- ・「いいね文庫」は、ボランティアの協力もあり研修センター2階全てに拡大し、在宅子育て家庭の親子や地域の児童(小中学生、不登校児童)も利用し、親子での参加も多くなっている。地域や子どもホスピスに絵本の貸し出しも行い好評である。
- ・数居の低い居場所づくりの一環として、カフェひだまりを開設し、ワークショップなどの場所にもなり、長期休み(夏休み、冬休み、春休み)は不定期でカレー食堂やおにぎり食堂も行っている。

○成果

- ・精神疾患や生活困窮の相談も長期間に及ぶが、思いを聞いてもらえる場所として定着している。
- ・コロナ以後再び「カフェひだまり」で地域の方の活動の拠点になりつつある。

○課題

- ・相談員の拡充

(3) 保育士等キャリアアップ研修事業

職員体制

正規職員	非常勤職員
0	1

講師数

外部講師	内部講師
7	0

キャリアアップ研修受講者数（各分野 定員50名）

分野	外部		内部		計	
	受講者数	修了者数	受講者数	修了者数	受講者数	修了者数
乳児保育	32	26	6	5	38	31
幼児保育	17	15	3	3	20	18
障がい児保育	27	27	10	10	37	37
食育・アレルギー対応	40	40	7	7	47	47
保健衛生・安全対策	21	21	8	8	29	29
保護者支援・子育て支援	24	23	8	8	32	31
マネジメント	21	20	6	6	27	26
計	182	172	48	47	230	219

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
なし	
0 件	0

主たる修繕

各所修繕

コメント（キャリアアップ研修）

○取組み

保育施設等に求められる役割も多様化・複雑化する中、保育教諭・保育士にはより高度な専門性が求められとともに保育士の処遇改善においても研修が必須となってきた。

大阪府からの指定をうけ、各分野、充実した講師陣を迎え、より専門性の高い保育士・保育教諭等の育成、スキル向上を行うため本研修会（専門分野別研修6分野＋マネジメント研修）を以下の内容で実施した。

- ◆募集定員…5分野各35名、2分野各70名
- ◆受講料…1分野あたり15,000円（資料代・消費税込み）※複数分野の申し込み可
- ◆研修期間…令和6年5月24日～9月7日
- ◆修了証について…各分野講義終了後に発行

○成果

7分野合計230名が受講し、219名に修了証を発行。

○課題

研修担当職員の充実

○反省・改善点

- ・受講申込後のキャンセル対応として受講料を振込みにし、ほぼキャンセルは解消できた。
- ・Eラーニングで受講しやすい研修形態を試みたが、受講者アンケートでは対面講義の希望が若干多く、令和7年度再度Eラーニングの受講動向を鑑み、令和8年度は対面講義も視野に入れ検討する。
- ・3階研修室のインターネット環境としてWi-Fi導入を希望する。

4. 収益事業

(1) 賃貸ビル(福祉ビル)

ビル1階部分をテナントとして遠藤クリニックに賃貸している

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
なし	
0 件	0

主たる修繕

各所修繕

コメント（収益事業）

福祉ビルは、テナントとして活用し、遠藤クリニックへ賃貸した。

5. 研修報告

《人権研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
児童・高年齢	川端千晴	4/17	未来に向かう力	5
	比嘉正子地域貢献事業 研修センター	6/19,7/16,7/17	いのちとこころの講演会	36
	大阪府社会福祉協議会	10/29	メンタルヘルス研修	1
	大阪府社会福祉協議会	11/20	これだけは意識しておきたい個人情報	1
	都島区役所子育て支援室	12/4	多様化する子どもの受け入れるために	1
	大阪府社会福祉協議会	12/6	虐待・不適切ケア	2
	一般社団法人Get in touch 理事長 東ちづる	12/17	Let's まぜこぜ～浅く広くゆるくつながろう～	69
	大阪市社会福祉施設 人権活動推進連絡協議会	1/31	福祉現場におけるカスタマーハラスメントへの対応	1
	浅田昌代	2/25	生(性)教育について	24
	法人内	施設長会議	法人及び各施設に関する人権について	適時
		職員会議	施設に関する人権について	適時
		役員会議	法人に関する人権について	適時

《役員研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
役員	大阪府社会福祉協議会経営者部会	6/12	人出不足時代の人が育ち採用で選ばれる育成術	2
	社会事業経営協会	10/30	社会福祉法人の今後の役割と展望	2

《外部研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
児童・高年齢	大阪青年経営者会	4/19,4/20	視察研修(定例会)徳島県 社会福祉法人あさがお福祉会	1
	日本保育保健協議会	5/17	愛着とWell-Being	24
	日本保育協会大阪支部	5/20	加速する少子化と保育の果たす役割	2
	NARA感覚統合研究会	6/1	感覚統合の基礎知識	2
	感覚統合協会	6/1	乳幼児期の感覚統合あそびセミナー	2
	日本保育協会大阪支部	6/7	乳幼児の一次救命処置 講習と実技	1
	全日本音楽教育連盟 西日本幼児音楽研修会	6/8,6/9	幼児マーチング&CD鼓隊講習会	4
	大阪府社会福祉協議会 大阪福祉人材センター	6/13	スーパーバイザー養成基礎研修	1
	大阪市手をつなぐ育成会	6/22	性教育～支援学校での取り組み～	2
	日本知的障害者福祉協会	6/24	オンデマンド:障がいのある子どもの支援について	2
	大阪市防火管理協会	7/1,7/2	甲種防火管理新規講習	1
	大阪社会福祉研修・情報センター	7/3	求人力・広報力向上研修	1
	大阪青年経営者会	7/12	勉強会『能登半島地震「1.5次避難所」派遣について』	1
	NPO法人日本ポーター協会	7/20,7/21	ポーター早期教育プログラム初級研修セミナー	1
	大阪市私立保育園連盟	7/22	危険予知と保護者対応	1
	大阪府福祉部子ども家庭局子育て支援課	7/22	乳幼児の一次救命処置について	1
	大阪市私立保育園連盟	7/25	要録研修	1
	日本保育保健協議会	7/26	気になる子どもと家族をアタッチメントから理解する	1
	全日本音楽教育連盟 他	8/2	幼児音楽教育夏季講座	9
	全日本音楽教育連盟	8/3	和太鼓講習会	1
	こどもみらい乳幼児教育振興会	8/6	2024 幼児教育大講習会	3
	(株)ひかりのくに講習会係	8/6	幼児教育大講習会	1
	日本インリアル研究会	8/10～8/18	オンデマンド:教育・支援現場でのコミュニケーション支援	3
	大阪市こども青年局	8/26	第四回看護師交流会 保護者への情報提供について	1
	こどもみらい乳幼児教育振興会	8/29	地域における子どもの見守りのポイント	1
	全国社会福祉法人経営者協議会	8/29～30	社会福祉法人をめぐる動向と全国経営協の取組 他	1
	日本保育協会	9/7	第12回保育科学研究所学術集会 オンライン	2
	エルム大阪	9/12,9/13	ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修	2
	大阪府障がい者自立相談支援センター	9/18～12/23	相談支援専門員初任者研修	3
	大阪青年経営者会	9/24	研修会「目の見えない私が真っ白な世界で見つけたこと 全盲の世界をポジティブに生きる」	1
	大阪市障がい者相談支援研修センター	9/25～10/20	オンデマンド:精神障がいの理解と支援について オンデマンド:高次脳機能障がいの理解と支援について オンデマンド:発達障がいの理解と支援について オンデマンド:強度行動障がいの理解と支援について	10
	都島警察	10/11	不審者、防犯対策	12
	日本インリアル研究会	10/12	ビデオ分析の実際	1

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
児	大阪府障がい者自立支援相談支援センター	10/18	強度行動障がい基礎研修	1
	大阪青年経営者会	10/18	研修会「働き方改革とICT 働く人の幸福度を高めるDX化の推進」	1
	大阪市私立保育連盟研修部	10/31	子どもはおもしろい！保育はいい仕事！	1
	大阪市私立保育園連盟	10/31	テーマ別研修 保育実践	1
	フレーベル館	11/14	多様な子どもたちが安心できるサポートの場づくり	1
	フレーベル館	11/14	子どもが「やってみたい」と思える環境とは？	1
	エルム大阪	11/20	発達障がいの理解と支援(基礎編)	1
	全国社会福祉法人経営者協議会	11/20	働きやすい職場づくり	2
	大阪市青年健全育成事業	11/25	大阪市 資質向上研修①	2
	全国青年経営者会	11/28, 11/29	全国大会「つながる～だれもが大切な人と、明るい未来を創造できる社会へ～」	1
	都島区社会福祉協議会	12/3	都市防災を考える	4
	大阪市青年健全育成事業	12/4	大阪市 資質向上研修②	2
	日本保育協会大阪支部女性部	12/4,12/5	乳児保育	3
	大阪市青年健全育成事業	12/9	大阪市 資質向上研修③	2
	都島消防署	12/11	AED研修	8
童	大阪府障がい者自立支援相談支援センター	12/20	強度行動障がい実践研修	2
	大阪市青年健全育成事業	1/13	大阪市 資質向上研修④	2
	都島区子育て支援室	1/22	事例で見る不登校支援	2
	大阪市こども青少年局	2/2	令和6年度大阪市病児・病後児保育事業担当者研修プログラム	1
	都島区保健福祉センター	2/6	食物アレルギー	1
	wellbeing共創研究センター	2/7	自閉スペクトラム症児の食行動と支援	1
	日本インリアル研究会	2/8	言葉の獲得を促す応答性と語り掛け	5
	大阪市青年健全育成事業	2/12,2/20,3/10	大阪市 資質向上研修⑤	3
	大阪市地域福祉施設協議会	2/14,15	全国大会	2
高 齢	大阪市介護専門員協会	4/27	BCP研修	1
	大阪市老人福祉施設連盟	5/27	生活相談員学習会	1
	大阪市介護専門員協会	5/13	BCP研修	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	5/14	報酬改定について	1
	大阪市介護専門員協会	5/18	介護の運営基準・報酬改定を振り返る	1
	交野市地域包括支援センター	5/23	権利擁護	1
	大阪市介護専門員協会	5/29	介護報酬の改定	1
	大阪市老人福祉施設連盟	6/5	BCP研修	2
	大阪府社会福祉推進財団	6/24	8050問題	1
	近畿社会福祉専門学校	7/1～10/31	実務者研修	2
	大阪市老人福祉施設連盟	7/3	BCP研修	2
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	7/16	適切なケアマネジメントについて	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	7/19	高齢者虐待と権利擁護支援	1
	近畿社会福祉専門学校	8/4～9/23	介護福祉士実習指導者講習会	1
	大阪市老人福祉施設連盟	8/28	BCP研修	2
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	9/10	高齢者虐待の対応について	1
	社会福祉法人東北福祉会	9/12	認知症基礎研修	1
	社会福祉法人東北福祉会	9/30	認知症基礎研修	1
	ハクゾウメディカル株式会社	10/5	ハクゾウリラケア研修	1
	大阪市老人福祉施設連盟	11/1	BCP研修	1
	大阪介護老人保健施設協会	11/6～1/22	認知症介護実践リーダー	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	11/12	医療との連携について	1
	大阪市老人福祉施設連盟	11/21	生活相談員学習会	1
	大阪市都島区社会福祉協議会	11/28	認知症研修	1
	医療法人 圓生会	12/5	認知症研修	1
	大阪府社会福祉協議会	12/20	CSWマイスター研修	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	1/14	低所得者高齢者のためのケアマネジメント	1
	都島区北部包括支援センター	1/15	精神疾患のある人への理解と支援Ⅱ	1
	大阪市老人福祉施設連盟	1/15	BCP研修	2
	高齢・障害・求職者雇用支援機構	1/15～1/17	障害者職業生活相談員資格認定講習	1
	大王製紙株式会社	2/9	介護の快護化に向けたスキントラブル予防の実践レクチャー	2
	社会福祉法人東北福祉会	2/23	認知症基礎研修	1
	大阪市保健所 大阪府栄養士会	2/26	栄養管理・食事ケアの推進のための情報交換会	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	3/11	総会	1
	阪南ビジネスマシン	3/14	助成金セミナー	1

《法人内研修》

	担当(部会)	研修日	研修内容	参加人数
児 童	児童全施設	4～5月	職員ハンドブック研修	全職員
	都島児童センター	4/3	ウェルネス研修「体育活動の補助について」	13
		4/12	アレルギー、乳幼児の発熱、痙攣時の基本的な対応手順について	10
		4/22	感染症、嘔吐処理	34
		5/14	心肺蘇生、AED	34
		5/16	音楽研修「朝の会でできること」	17
		6/10	「気になる子どもへの関わり方の工夫について」	3
		7/11	音楽研修「楽器使用について」	30
		9/12	「気になる子どもへの関わり方の工夫について」	34
	友渕児童センター	4/2	保健研修(心肺蘇生・窒息・痙攣・エピペン・AEDの使用について)	全職員
		6/20	保育施設における感染症対策について	全職員
		9/27	メンタルヘルス～自分の考え方の癖を知る～	6
	桜宮児童センター	4/23,4/25 4/30,5/1	保健研修	全職員
		4/30	アレルギー、AED研修	10
	ひがみや児童センター	5/29,6/26,7/1	看護師による保健研修	全職員
		2/6	障がい児研修 適切な行動を増やす子どもへの接し方	3
		2/7	障がい児研修 体の発達について～保育に生かせる運動遊び～	3
	都島乳児保育センター	4/18	園内非常設備確認・災害時図上訓練	全職員
		5/10	職員ハンドブック研修	全職員
		5/15	怪我の対応(応急処置)・SIDS・熱性けいれん	全職員
		5/16	アレルギー・食事介助について	全職員
		5/17	誤嚥、誤飲時の対応・心肺蘇生(AED使用方法)	全職員
		11/27	大人も子どもも楽しい毎日を	3
	都島第二乳児保育センター	4/4, 4/5, 4/6	保健研修	23
		5/29,6/7	アレルギー、嘔吐処理についてのグループ討論	16
		7/1, 7/2	水あそび	23
		7/26	気になる子どもと家族を「アタッチメント」から理解する	10
		8/20	誰でも通園制度	5
		9/9	園から守ろう！お口のケガと健康	20
		10/31	福祉現場におけるカスタマーハラスメントへの対応	8
		11/27	園内研修	5
		11/29	ヒヤリ・ハット記録を活かしてH絵ithy Happy保育をしよう「変えられる」を見つけよう	6
	友渕乳児保育センター	4/2, 4/3	心肺蘇生法	20
		4/5	食物アレルギー	1
		6/27	水あそび指導	8
	こども発達サポートステーションそれいゆ	5/16	BCP(緊急時対応・感染症対応)	1
		5/28	血液を介して感染する病気を防止するための理解と実践	1
		6/11	感覚統合について	1
		6/12	インリアルアプローチ・ペアレントトレーニングについて	全職員
		6/21	報酬改定について	全職員
		7/1	感染症のしくみ	全職員
		9/11	体験談を聞く会より	全職員
		2/7	カラダの発達について	全職員
	都島児童館	6/25	嘔吐など衛生についての研修	5
高 齢	特養ひまわりの郷 デイサービスひまわり 訪問介護ひーぐるま	4/18	第1回内部研修(介護機器/介護技術/看取り)	23
		6/20	第2回内部研修(リスクマネジメント/褥瘡/防災/感染症)	28
		8/21	第3回内部研修(身体拘束廃止/理念浸透/高齢者虐待防止/プライバシー)	20
		10/22	第4回内部研修(リスクマネジメント/感染症/防止/ハラスメント)	16
		12/16	第5回内部研修(感染症/認知症/腰痛予防/身体拘束廃止)	21
		3/13	第6回内部研修(介護技術/人権/コンプライアンス/高齢者虐待防止/運営)	22

《沖縄》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
内 部 研 修	渡保育園	4/12	「個人情報について」「守秘義務について」	12
		8/29, 8/30	「全体的な計画および指導計画について」	8
		11/16	仕事の取組み方・保育士の心得等	15
		3/22	けいれん・ひきつけについて	8
		3/30	「保育の心得」	12
	松島保育園	4/5	食物アレルギー実技研修(エピペン・AED)	10
		4/5	こどもの重大事故を防ぐポイント(午睡・誤嚥・誤飲)	10
		4/12	個人情報について	17
		5/18	松島自治会防災訓練の報告と防災園内研修会	17
		5/18	小児救急(応急処置実技・対応の仕方)	17
		5/18	R5年度ヒヤリハット報告・安全管理研修会	15
		7/4	安全管理の質の向上「こどもの命を守る」	12
		11/16	調理衛生管理研修	3
		11/16	乳幼児突然死他、応急処置・エピペンの使い方	15
		3/22	痙攣について	11
		3/31	新年度に向けて食物アレルギー対応マニュアル研修	14
		3/31	保育士の心得	15
外 部 研 修	那覇市こどもみらい課	4/1～5/21	子どもの発達理解と支援	9
	松島自治会	4/20	松島自治会防災訓練・災害研修会	1
	那覇市役所	4月～5月	那覇市発達支援研修(オンライン)前期	12
		5/8	那覇市保幼小合同研修会幼児教育と小学校接続	6
		5/9	那覇市保育施設職員研修会(小児救急)	1
	沖縄教育委員会	5/16	那覇市保幼小合同研修会 前期	1
	那覇市こどもみらい課	5/18	保幼小合同研修会	1
	那覇市役所・藤森平司氏	5/20	こどもの主体性を促す環境を構成する力を高める	1
	那覇市こども教育保育課	5/21	小児救急	1
	サニクリーン	5/24	AED研修	15
	那覇市園長会	5/24	こどもの主体性を促す環境を構成する力を高める	1
	那覇市役所	5/28	小児の食物等のアレルギーについて	1
	(有)メイト沖縄	6/1～6/30	防災新常識	15
	那覇市役所	6/18	就学前教育保育施設研修	1
	那覇市市役所・那覇市立病院小児科	7/23	乳児保険における授乳・睡眠・排泄のポイント	3
	那覇市こどもみらい課	7/25	城西こども園 公開保育研修会	1
		7/31	識名こども園 公開保育研修会	1
		8/9	熱中症防止	12
	福祉人材センター	8/26～9/30	児童福祉施設等給食担当職員研修会	3
	(株)サニクリーン	8/30	心肺蘇生AED研修	7
	那覇市役所	8月～	熱中症の事故の傾向と対策(オンライン)	12
	沖縄県教育庁義務教育課	9/6	那覇市保幼小合同研修会 後期	1
	ポピンズ	9/18～12/31	キャリアアップ研修(各分野)	8
	沖縄県社会福祉協議会	9/20	児童福祉施設等給食担当職員研修	3
	那覇市こども教育保育課	9/27	就学前教育保育施設における衛生管理について	1
	那覇市こどもみらい課	9/27	保幼小合同研修会 公開授業	1
	那覇市こども教育保育課	10/29	那覇市防災研修会	1
	那覇市市役所	10/30	リミックヤリズムあそびを楽しく保育に取り入れよう	1
	那覇市こども教育保育課	11/15,11/16	重大事故研修	3
	那覇市市役所	11/19	幼児教育と小学校教育の接続について	1
	那覇市こども発達支援センター	11月～12月	発達支援研修会(オンライン)後期	14
	コドモン	1/30	コドモン感染症	1
	保育ラボ	1/24	キャリアアップ研修(各分野)	3
	那覇市役所	3/5	ことばとコミュニケーション	1

《アウトリーチ型研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
児 童	比嘉正子地域貢献事業 研修センター他	6/12	感染症について	15
		6/13	アレルギーについて	14
		6/19,7/16,7/17	「いのちとこころの講習会」児童虐待の予防	136
		7/9	みんなの防災力アップセミナー	24
		7/29,7/30	体育指導のポイント	38
		1/24, 2/28	少子化と保育施設の変化と人材育成	53

令和6年度(2024) 都島友の会 保育士等キャリアアップ研修 プログラム表～

	講義内容	日程		定	講 師	
乳 児 保 育	乳児保育の意義	5月24日	金	14：00～17：15	35	大阪総合保育大学 学長 大方 美香 氏
	乳児保育の環境	6月21日		10：00～17：15 (昼休憩45分含 む)		帝塚山大学 准教授 永井久美子氏
	乳児への適切な関わり					
	乳児の発達に応じた保育内容	7月12日				
	乳児保育の指導計画、記録及び評価					
幼 児 教 育	幼児教育の意義	8月17日	土	10：00～17：15 (昼休憩45分含む)	35	
	幼児教育の環境	8月20日	火	14:00～17:15		
	幼児の発達に応じた保育内容	9月7日	土	10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		
	幼児教育の指導計画、記録及び評価					
	小学校との接続					
障 が い 児 保 育	障がい児保育の理解	6月29日	土	10：00～17：15 (昼休憩45分含む)	35	岐阜聖徳学園大学 専任講師 永井 祐也 氏
	障がい児保育の環境	7月5日	金	14：00～17：15		
	障がい児の発達の援助					
	障がい児保育の指導計画、記録及び評価	7月6日	土	10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		
	家庭及び関係機関との連携					
保 子 護 育 者 支 援	保護者支援・子育て支援の意義	7月13日	土	9：45～13：00	35	武庫川女子大学 教 授 倉石 哲也 氏
	保護者に対する相談援助	7月20日		10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		
	地域における子育て支援					
	虐待予防	7月27日				
	関係機関との連携、地域支援の活用					
マ ネ ジ メ ン ト	マネジメントの理解	6月14日	金	13：00～18：15	35	関西福祉科学大学 准教授 小口 将典 氏
	リーダーシップ・職員への助言	6月28日				
	他職種との協働・組織の課題の抽出 及び解決策の検討/組織目標の設定					
	人材育成 働きやすい環境づくり	7月19日				

★ eラーニング研修課程（食育・アレルギー対応分野、保健衛生・安全対策分野）定員70名

ア レ ル ギ ー 対 応	栄養に関する基礎知識	配信日程	5月1日～5月26日	A 35 + B 35	大阪総合保育大学 講師 阿川 勇太 氏
	アレルギー疾患の理解	集合研修	5月11日		
	保育所におけるアレルギー対応ガイドライン	A日程	9:45～13:00		
	保育所における食事の提供ガイドライン	集合研修	5月25日		
	食育計画の作成と活用	B日程	9:45～13:00		
保 安 健 全 衛 生 策	保育所における感染症対策ガイドライン	配信日程	5月31日～6月25日	A 35 + B 35	大阪総合保育大学 講師 阿川 勇太 氏
	*保健計画の作成と活用	集合研修	6月8日		
	*保育の場において血液を介して感染 する病気を防止するためのガイドライン	A日程	9:45～13:00		
	*教育・保育施設等における事故防止及び 事故発生時の対応のためのガイドライン	集合研修	6月20日		
	*事故防止及び健康安全管理	B日程	13:30～16:45		

★研修会場（全日程）…社会福祉法人都島友の会 比嘉正子地域貢献事業研修センター3階
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通3-16-8 TEL:06-6925-1304)